

授業計画

(シラバス)

介護福祉学科 2 1 期生
(平成 2 9 年度生)

学校法人 Y I C 学院

Y I C 看護福祉専門学校

〒747-0802 山口県防府市中央町 1 番 8 号

TEL 0835-26-1122

FAX 0835-26-1155

1年 シラバス

授 業 概 要

科目名 人間の理解A		授業の種類 講義・演習	授業担当者 山根 千絵
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 1年 前期	必修、選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕 人間の多面的理解と尊厳の保持、自立・自律した生活を支える必要性について理解する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 人間の尊厳と自立を踏まえた、介護における実践のあり方について学ぶ。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 人間の生き方に視点を置き、利用者が尊厳をもち自立することで、その可能性を引き出すことができるような支援能力を身につける。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間を理解するとは、尊厳とは、尊厳の意義 2 自立とは、自立の意義、自立と自律 3 人権とは、尊厳と自立の思想、歴史 4 尊厳と自立に関する諸規定 5 生活を通して尊厳と自立を考える 6 よりよい人生を送るための支援について 7 権利擁護と人権尊重(まとめ) 8 介護における自立支援(概要) 9 介護を受けない権利について考える 10 権利侵害の背景について考える 11 介護における自立支援について考える 12 自立への意欲と動機づけについて考える 13 尊厳保持の実践について考える 14 自己決定について考える 15 演習問題をしながら振り返る 			
〔使用テキスト・参考文献〕 「人間の理解」中央法規出版		〔成績評価認定の方法及び基準〕 期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等、総合的に評価。【優・良・可・不可】評価とする。	
〔備考〕			

授 業 概 要

科目名 人間の理解B		授業の種類 講義・演習	授業担当者 山根 千絵
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 1年 前期	必修、選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕 人間の多面的理解と尊厳の保持、自立・自律した生活を支える必要性について理解する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 人間の尊厳と自立を踏まえた、介護における実践のあり方について学ぶ。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 人間の生き方に視点を置き、利用者が尊厳をもち自立することで、その可能性を引き出すことができるような支援能力を身につける。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 個々人の認知世界、人生の主人公 2 ストレスを考える、利用者の捉え方 3 人間関係の様々な広がり 4 発達と人間関係 5 職場での人間関係、ファミリーマップ 6 コミュニケーションとは～双方向 7 コミュニケーションの目的と方法について 8 コミュニケーションを環境面から考える 9 コミュニケーションの基礎的理解を踏まえての演習 10 コミュニケーション技法を知る 11 コミュニケーションの実際の展開について体験する 12 コミュニケーション技法を意識して活かしてみる 13 カウンセリング法を実践する 14 自己決定について考える 15 演習問題をしながら振り返る 			
〔使用テキスト・参考文献〕 「人間の理解」中央法規出版		〔成績評価認定の方法及び基準〕 期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等、総合的に評価。【優・良・可・不可】評価とする。	
〔備考〕			

授 業 概 要

科目名 生活活動論(レクリエーション)		授業の種類 講義・演習	授業担当者 松澤 可奈子
授業の回数 20 回	時間数(回数×2) 40 時間	配当学年・時期 1年 前期・後期	必修、選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕 介護サービスにおける、レクリエーション支援の意義について理解させる。 レクリエーション支援の実際と役割、活動の実際を理解させ、実践できるようにする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 レクリエーション支援の基礎理論を習得した上で、介護を初めとする福祉分野で実際にレクリエーション支援を実施できるようになるための、知識・技術を習得する。理論学習以外は演習・グループワークによる授業とし、レクリエーション支援の実際を体験するとともに、チーム支援であるレクリエーション支援において重要な、合意形成能力を高める機会とする。介護福祉士としてレクリエーション活動の必要性を理解し、支援者として自己課題を見出す学習へと繋げる。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日常生活とレクリエーション・介護福祉士とレクリエーション支援の必要性について 2 援助者としてのホスピタリティについて・ホスピタリティマインドレーニング 3 アイスブレイクについて・実技 4 高齢者期の基礎生活時間・余暇の重要性について・指導と支援の違いについて 5 高齢期のこころとからだの理解・自己実現に向けた接遇について 6 コミュニケーションの姿勢を学ぶ・障害別の基本的な接し方 7 レクリエーション企画書の作り方・グループワーク 8 レクリエーションの実践・介護レクリエーションの実行 9 企画書の発表 10 福祉レクリエーション援助のプロセスA-PIEについて・企画の立て方・A-PIEの導入方法 11 認定試験 12 レクリエーション実施メンバー分け・実施施設の概要について 13 アセスメントシートの作成 14 福祉レクリエーション援助プロセス(情報収集・アセスメント) 施設訪問 15 福祉レクリエーション援助プロセス(情報収集・アセスメント) 施設訪問 16 福祉レクリエーション援助プロセス(計画立案) 17 福祉レクリエーション援助プロセス(計画立案) 18 福祉レクリエーション援助プロセス(実施) 施設訪問 19 福祉レクリエーション援助プロセス(実施) 施設訪問 20 福祉レクリエーション援助プロセス(評価)・実施の振り返り・学習のまとめ 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 レクリエーション介護士2級公式テキスト</p>		<p>〔成績評価認定の方法及び基準〕 期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等、総合的に評価。 【優・良・可・不可】評価とする。</p>	
〔備考〕			

授 業 概 要

科目名 国語表現		授業の種類 講義	授業担当者 久賀 菜穂子
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 1年 前期	必修、選択 選択
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>言葉の大切さを認識し、正しく遣うことができるようにする。 実習日誌などの記載時に備え、書き言葉を覚え、実際に書くことができるようになる。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>原稿用紙・レポート用紙の使い方を覚え、実際に書く練習を重ねる。 漢字・語句・ことわざなどの小テストを行い、正しいものを覚える。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>実習日誌・作文・小論文が書けるようになる。 漢字や語句を正しく選び、使用することができるようになる。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・「国語表現」の授業の目的と言葉の重要性・今問われていること 2 言葉選びの基準・コミュニケーションと言葉 3 原稿用紙の使い方・レポート用紙の使い方 4 メモの重要性・実習日誌の書き方 5 主観と客観～実習日誌の書き方 6 お礼状の書き方 7 ねじれ文について等 8 伝わりやすい文章の書き方・話し方(文章作成のポイント) 9 伝わりやすい文章の書き方・話し方 10 作文の書き方① 11 作文の書き方② 12 小論文の書き方① 13 小論文の書き方② 14 説明力をつける 15 話し方・書き方のまとめ ・ 試験について説明 			
〔使用テキスト・参考文献〕		〔成績評価認定の方法及び基準〕	
		<p>期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等、総合的に評価。【優・良・可・不可】評価とする。</p>	
〔備考〕			

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者																														
介護の基本Ⅰ－Ⅰ		講義・演習	福本 智子																														
授業の回数	時間数 (回数 × 2)	配当学年・時期	必修、選択																														
30 回	60 時間	1年 前期	必修																														
<p>[授業のねらい] 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解し、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉え、安全やチームケアなどについて理解するなどについて理解する</p> <p>[授業全体の概要] ・生活とは何かを示し、どのような特性をもっているのかを学び、生活についての基本的な理解を深める ・一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣などを理解し、その人らしさを大切にすることなどを学ぶ ・歴史的な経過から介護がなぜ必要になったかの成り立ちや考え方を理解し、生活支援としての介護の役割や専門性について学ぶ</p>																																	
<p>[授業の各回の概要]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 介護を必要とする人の理解 生活とは、介護とは何か (演習)</td> <td>16 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (演習)</td> </tr> <tr> <td>2 私たちの生活の理解 さまざまな生活の違いがあること (演習)</td> <td>17 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (演習)</td> </tr> <tr> <td>3 対人関係形成技術 家政的管理技術</td> <td>18 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (発表)</td> </tr> <tr> <td>4 身体的生活行為を成立させる技術 社会生活の維持・拡大の技術</td> <td>19 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (発表)</td> </tr> <tr> <td>5 対人援助技術・コミュニケーションの基本 共感的理解と基本的態度の習得 (視聴)</td> <td>20 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (発表・まとめ)</td> </tr> <tr> <td>6 高齢者や障害をもった人たちの暮らしと介護 高齢者や障害のある人の理解 (演習)</td> <td>21 奇跡の人 (視聴) ～三重苦を克服した偉人ヘレンケラー物語～</td> </tr> <tr> <td>7 重度の身体障害のある人が一人旅に出ようとした場合の支援を考える</td> <td>22 障害をもった人の暮らしを支える介護 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解</td> </tr> <tr> <td>8 介護の専門性 介護福祉士法に定められている職業倫理</td> <td>23 生活環境の重要性 (演習) どのような行為が身体拘束とみなされるのか?</td> </tr> <tr> <td>9 介護福祉士としての倫理の必要性 介護の専門職にとって必要な倫理とは何か?</td> <td>24 身体拘束とは (事例)</td> </tr> <tr> <td>10 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (防府市図書館)</td> <td>25 身体拘束について</td> </tr> <tr> <td>11 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (防府市図書館)</td> <td>26 身体拘束について (演習)</td> </tr> <tr> <td>12 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (演習)</td> <td>27 認知症高齢者を縛らずに介護 (視聴) ～スタッフの格闘・患者の回復～</td> </tr> <tr> <td>13 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (演習)</td> <td>28 生活障害の理解</td> </tr> <tr> <td>14 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (演習)</td> <td>29 事例で学ぶ介護の専門性と職業倫理</td> </tr> <tr> <td>15 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (演習)</td> <td>30 総まとめ</td> </tr> </table>				1 介護を必要とする人の理解 生活とは、介護とは何か (演習)	16 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (演習)	2 私たちの生活の理解 さまざまな生活の違いがあること (演習)	17 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (演習)	3 対人関係形成技術 家政的管理技術	18 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (発表)	4 身体的生活行為を成立させる技術 社会生活の維持・拡大の技術	19 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (発表)	5 対人援助技術・コミュニケーションの基本 共感的理解と基本的態度の習得 (視聴)	20 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (発表・まとめ)	6 高齢者や障害をもった人たちの暮らしと介護 高齢者や障害のある人の理解 (演習)	21 奇跡の人 (視聴) ～三重苦を克服した偉人ヘレンケラー物語～	7 重度の身体障害のある人が一人旅に出ようとした場合の支援を考える	22 障害をもった人の暮らしを支える介護 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解	8 介護の専門性 介護福祉士法に定められている職業倫理	23 生活環境の重要性 (演習) どのような行為が身体拘束とみなされるのか?	9 介護福祉士としての倫理の必要性 介護の専門職にとって必要な倫理とは何か?	24 身体拘束とは (事例)	10 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (防府市図書館)	25 身体拘束について	11 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (防府市図書館)	26 身体拘束について (演習)	12 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (演習)	27 認知症高齢者を縛らずに介護 (視聴) ～スタッフの格闘・患者の回復～	13 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (演習)	28 生活障害の理解	14 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (演習)	29 事例で学ぶ介護の専門性と職業倫理	15 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (演習)	30 総まとめ
1 介護を必要とする人の理解 生活とは、介護とは何か (演習)	16 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (演習)																																
2 私たちの生活の理解 さまざまな生活の違いがあること (演習)	17 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (演習)																																
3 対人関係形成技術 家政的管理技術	18 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (発表)																																
4 身体的生活行為を成立させる技術 社会生活の維持・拡大の技術	19 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (発表)																																
5 対人援助技術・コミュニケーションの基本 共感的理解と基本的態度の習得 (視聴)	20 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (発表・まとめ)																																
6 高齢者や障害をもった人たちの暮らしと介護 高齢者や障害のある人の理解 (演習)	21 奇跡の人 (視聴) ～三重苦を克服した偉人ヘレンケラー物語～																																
7 重度の身体障害のある人が一人旅に出ようとした場合の支援を考える	22 障害をもった人の暮らしを支える介護 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解																																
8 介護の専門性 介護福祉士法に定められている職業倫理	23 生活環境の重要性 (演習) どのような行為が身体拘束とみなされるのか?																																
9 介護福祉士としての倫理の必要性 介護の専門職にとって必要な倫理とは何か?	24 身体拘束とは (事例)																																
10 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (防府市図書館)	25 身体拘束について																																
11 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (防府市図書館)	26 身体拘束について (演習)																																
12 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (演習)	27 認知症高齢者を縛らずに介護 (視聴) ～スタッフの格闘・患者の回復～																																
13 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (演習)	28 生活障害の理解																																
14 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (演習)	29 事例で学ぶ介護の専門性と職業倫理																																
15 高齢者が生きてきた時代や文化を理解する (演習)	30 総まとめ																																
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規出版 介護の基本Ⅰ</p> <p>中央法規出版 介護の基本Ⅱ</p>		<p>[成績評価認定の方法]</p> <p>期末試験、出席状況、授業態度、提出物等を総合的に(優・良・可・不可)評価する。</p>																															

授 業 概 要

科目名 生活支援技術 I - 1		授業の種類 講義・演習	授業担当者 伊東 典子																														
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 1年 前期	必修、選択 必修																														
<p>〔授業の目的・ねらい〕 利用者がその人らしい生活を継続し、自立を支援できる方法を理解し、提供できる力を養う</p> <p>〔授業の目標〕 1. 生活支援とは何か基本的な考え方が理解できる 2. 居住環境整備、家事支援における介護技術が理解できる 3. その人らしい生活支援の方法が理解できる</p>																																	
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1 生活支援とは何か</td> <td style="width: 70%;">生活を理解する支援</td> </tr> <tr> <td>2 〃</td> <td>生活支援の基本的な考え方</td> </tr> <tr> <td>3 生活支援と福祉用具の活用</td> <td>福祉用具とは</td> </tr> <tr> <td>4 〃</td> <td>生活で福祉用具を活用する視点</td> </tr> <tr> <td>5 居住環境の整備</td> <td>居住環境の意義と目的</td> </tr> <tr> <td>6 〃</td> <td>安心して快適な生活の場づくり</td> </tr> <tr> <td>7 〃</td> <td>在宅生活を続けるための環境整備</td> </tr> <tr> <td>8 家庭生活に係る基礎知識</td> <td>家庭生活の理解</td> </tr> <tr> <td>9 〃</td> <td>家庭生活の営み</td> </tr> <tr> <td>10 家事の介護</td> <td>家事支援の意義と目的</td> </tr> <tr> <td>11 〃</td> <td>家事支援における介護技術</td> </tr> <tr> <td>12 〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>13 〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>14 〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>15 緊急時の対応の知識・まとめ</td> <td>緊急時の対応について</td> </tr> </table>				1 生活支援とは何か	生活を理解する支援	2 〃	生活支援の基本的な考え方	3 生活支援と福祉用具の活用	福祉用具とは	4 〃	生活で福祉用具を活用する視点	5 居住環境の整備	居住環境の意義と目的	6 〃	安心して快適な生活の場づくり	7 〃	在宅生活を続けるための環境整備	8 家庭生活に係る基礎知識	家庭生活の理解	9 〃	家庭生活の営み	10 家事の介護	家事支援の意義と目的	11 〃	家事支援における介護技術	12 〃	〃	13 〃	〃	14 〃	〃	15 緊急時の対応の知識・まとめ	緊急時の対応について
1 生活支援とは何か	生活を理解する支援																																
2 〃	生活支援の基本的な考え方																																
3 生活支援と福祉用具の活用	福祉用具とは																																
4 〃	生活で福祉用具を活用する視点																																
5 居住環境の整備	居住環境の意義と目的																																
6 〃	安心して快適な生活の場づくり																																
7 〃	在宅生活を続けるための環境整備																																
8 家庭生活に係る基礎知識	家庭生活の理解																																
9 〃	家庭生活の営み																																
10 家事の介護	家事支援の意義と目的																																
11 〃	家事支援における介護技術																																
12 〃	〃																																
13 〃	〃																																
14 〃	〃																																
15 緊急時の対応の知識・まとめ	緊急時の対応について																																
〔使用テキスト・参考文献〕 「生活支援技術 I」中央法規出版		〔成績評価認定の方法及び基準〕 筆記試験10割 【優・良・可・不可】評価とする。																															
〔備考〕																																	

授 業 概 要

科目名 生活支援技術Ⅱ－1		授業の種類 講義 演習	授業担当者 山本 芳徳 松澤 可奈子																														
授業の回数 30 回	時間数(回数×2) 60 時間	配当学年・時期 1年 前期	必修、選択 必修																														
<p>[授業の目的・ねらい] どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護技術とは何かを知り、アセスメントの手法や身じたく・移動・食事における介護の意義と目的について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 人間が社会生活を営む中で、年をとったり障害をもつことで、こころやからだに変化をもたらす。それらの具体的な場面に応じたアセスメントと技術を提供できる力を身につける。</p>																																	
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">1 基本となる介護技術とは何か・介護の専門性・専門職としての位置づけ</td> <td style="width: 33%;">16 食事介護意義・目的・食事におけるアセスメントについて 嚥下のメカニズム</td> </tr> <tr> <td>2 アセスメントとは何か ICFの考え方とアセスメント</td> <td>17 食事のための道具・用具・食事介護 (とろみ調整食品・粥・介護食・きざみ・ミキサーなど)</td> </tr> <tr> <td>3 介護者としての身支度・準備について 主な姿勢と安楽な体制</td> <td>18 技術の振り返り (移動・歩行介助・車いすの介助・着脱衣の介助)</td> </tr> <tr> <td>4 ボディメカニクスの基本原理</td> <td>19 移動・移乗の意義・目的・移動・移乗におけるアセスメント 長期臥床による障害・体位変換(仰臥位から側臥位)</td> </tr> <tr> <td>5 移動の介護・意義と目的 立ち上がりの介助(技術)</td> <td>20 体位変換の介護(仰臥位から側臥位・対面法・背面法)</td> </tr> <tr> <td>6 移動・移乗の福祉用具について</td> <td>21 体位変換の介護(水平移動・左から右)</td> </tr> <tr> <td>7 杖歩行介助(3動作歩行・2動作歩行・平地歩行・段差越え・階段の昇降)</td> <td>22 体位変換の介護(上方移動)</td> </tr> <tr> <td>8 車椅子の介助 (走行・段差超え・砂利道)</td> <td>23 車椅子への移乗介助(見守り介助・一部介助・全介助)</td> </tr> <tr> <td>9 車椅子の介助 (スロープ・エレベーター)</td> <td>24 車椅子への移乗介助(見守り介助・一部介助・全介助)</td> </tr> <tr> <td>10 睡眠の介護・意義目的・睡眠におけるアセスメントについて</td> <td>25 移動・移乗介助のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11 睡眠の介護技術・ベッドメイキング</td> <td>26 移動・移乗介助の技術チェック(事例展開)</td> </tr> <tr> <td>12 ベッドメイキング技術チェック</td> <td>27 身じたくの介護・ベッド上での更衣(前開きパジャマ)</td> </tr> <tr> <td>13 ベッドメイキング技術チェック</td> <td>28 身じたくの介護・ベッド上での更衣(浴衣)</td> </tr> <tr> <td>14 身じたくの介護・意義と目的</td> <td>29 身じたくの介護・ベッド上での更衣まとめ</td> </tr> <tr> <td>15 衣服の着脱介護 座位姿勢の着脱 (前開き上衣・かぶり上衣・ズボン)</td> <td>30 ベッド上での更衣技術チェック(事例展開)</td> </tr> </table>				1 基本となる介護技術とは何か・介護の専門性・専門職としての位置づけ	16 食事介護意義・目的・食事におけるアセスメントについて 嚥下のメカニズム	2 アセスメントとは何か ICFの考え方とアセスメント	17 食事のための道具・用具・食事介護 (とろみ調整食品・粥・介護食・きざみ・ミキサーなど)	3 介護者としての身支度・準備について 主な姿勢と安楽な体制	18 技術の振り返り (移動・歩行介助・車いすの介助・着脱衣の介助)	4 ボディメカニクスの基本原理	19 移動・移乗の意義・目的・移動・移乗におけるアセスメント 長期臥床による障害・体位変換(仰臥位から側臥位)	5 移動の介護・意義と目的 立ち上がりの介助(技術)	20 体位変換の介護(仰臥位から側臥位・対面法・背面法)	6 移動・移乗の福祉用具について	21 体位変換の介護(水平移動・左から右)	7 杖歩行介助(3動作歩行・2動作歩行・平地歩行・段差越え・階段の昇降)	22 体位変換の介護(上方移動)	8 車椅子の介助 (走行・段差超え・砂利道)	23 車椅子への移乗介助(見守り介助・一部介助・全介助)	9 車椅子の介助 (スロープ・エレベーター)	24 車椅子への移乗介助(見守り介助・一部介助・全介助)	10 睡眠の介護・意義目的・睡眠におけるアセスメントについて	25 移動・移乗介助のまとめ	11 睡眠の介護技術・ベッドメイキング	26 移動・移乗介助の技術チェック(事例展開)	12 ベッドメイキング技術チェック	27 身じたくの介護・ベッド上での更衣(前開きパジャマ)	13 ベッドメイキング技術チェック	28 身じたくの介護・ベッド上での更衣(浴衣)	14 身じたくの介護・意義と目的	29 身じたくの介護・ベッド上での更衣まとめ	15 衣服の着脱介護 座位姿勢の着脱 (前開き上衣・かぶり上衣・ズボン)	30 ベッド上での更衣技術チェック(事例展開)
1 基本となる介護技術とは何か・介護の専門性・専門職としての位置づけ	16 食事介護意義・目的・食事におけるアセスメントについて 嚥下のメカニズム																																
2 アセスメントとは何か ICFの考え方とアセスメント	17 食事のための道具・用具・食事介護 (とろみ調整食品・粥・介護食・きざみ・ミキサーなど)																																
3 介護者としての身支度・準備について 主な姿勢と安楽な体制	18 技術の振り返り (移動・歩行介助・車いすの介助・着脱衣の介助)																																
4 ボディメカニクスの基本原理	19 移動・移乗の意義・目的・移動・移乗におけるアセスメント 長期臥床による障害・体位変換(仰臥位から側臥位)																																
5 移動の介護・意義と目的 立ち上がりの介助(技術)	20 体位変換の介護(仰臥位から側臥位・対面法・背面法)																																
6 移動・移乗の福祉用具について	21 体位変換の介護(水平移動・左から右)																																
7 杖歩行介助(3動作歩行・2動作歩行・平地歩行・段差越え・階段の昇降)	22 体位変換の介護(上方移動)																																
8 車椅子の介助 (走行・段差超え・砂利道)	23 車椅子への移乗介助(見守り介助・一部介助・全介助)																																
9 車椅子の介助 (スロープ・エレベーター)	24 車椅子への移乗介助(見守り介助・一部介助・全介助)																																
10 睡眠の介護・意義目的・睡眠におけるアセスメントについて	25 移動・移乗介助のまとめ																																
11 睡眠の介護技術・ベッドメイキング	26 移動・移乗介助の技術チェック(事例展開)																																
12 ベッドメイキング技術チェック	27 身じたくの介護・ベッド上での更衣(前開きパジャマ)																																
13 ベッドメイキング技術チェック	28 身じたくの介護・ベッド上での更衣(浴衣)																																
14 身じたくの介護・意義と目的	29 身じたくの介護・ベッド上での更衣まとめ																																
15 衣服の着脱介護 座位姿勢の着脱 (前開き上衣・かぶり上衣・ズボン)	30 ベッド上での更衣技術チェック(事例展開)																																
<p>[使用テキスト・参考文献] 「生活支援技術Ⅱ」中央法規出版 「介護ケア・ガイド」 文光堂 「高齢者ケアガイドライン」山口県介護福祉士会</p>		<p>[成績評価認定の方法及び基準] 期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等、総合的に評価。【優・良・可・不可】評価とする。</p>																															
<p>[備考]</p>																																	

授 業 概 要

科目名 介護総合演習A		授業の種類 講義・演習	授業担当者 松澤 可奈子																																							
授業の回数 42 回	時間数 (回数 × 2) 84 時間	配当学年・時期 1年 前期	必修、選択 必修																																							
<p>〔授業の目的・ねらい〕 介護実習に向けての心構え、予備知識、動機付け等の準備を行い、介護実習中は実践力が身につくことができるようにし、実習後は振り返りを行うことで効果的な実習を行えるようにする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 実習内容の把握と記録物について。 実習の振り返り。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 根拠に基づいた介護実践、体験を融合して論理的に表現することができる力を身につける。</p>																																										
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 45%;">1 介護総合演習とは。実習予定の確認 実習要項の説明 実習の心得</td> <td style="width: 5%; text-align: center;">14</td> <td style="width: 50%;">申し送り票の記入・御礼状作成 実習の振り返り(自己評価)</td> </tr> <tr> <td>2 施設を理解する・介護福祉士の仕事 デイサービス(DVD)</td> <td style="text-align: center;">15</td> <td>実習の振り返り(自己評価)</td> </tr> <tr> <td>3 実習交流会(2年生より実習体験について)</td> <td style="text-align: center;">16</td> <td>個人票・誓約書・実習のねらい作成</td> </tr> <tr> <td>4 施設を理解する・介護福祉士の仕事 グループワーク(デイサービス)</td> <td style="text-align: center;">17</td> <td>個人票・誓約書・実習のねらい作成 記録物の配布</td> </tr> <tr> <td>5 施設を理解する・介護福祉士の仕事 グループワーク(デイサービス)</td> <td style="text-align: center;">18</td> <td>グループミーティング (グループホーム)</td> </tr> <tr> <td>6 施設を理解する・介護福祉士の仕事 グループワーク発表(デイサービス)</td> <td style="text-align: center;">19</td> <td>事前訪問</td> </tr> <tr> <td>7 緊急連絡先確認・電話の掛け方について 個人票・誓約書・実習のねらい作成</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td>事前訪問 ・報告書の作成・報告</td> </tr> <tr> <td>8 実習記録物の配布 実習記録の書き方につて</td> <td style="text-align: center;">21</td> <td>事前訪問 ・報告書の作成・報告</td> </tr> <tr> <td>9 グループミーティング</td> <td style="text-align: center;">22</td> <td>結団式 (グループホーム)</td> </tr> <tr> <td>10 事前訪問</td> <td style="text-align: center;">23</td> <td>申し送り票の記入・御礼状作成 実習の振り返り(自己評価)</td> </tr> <tr> <td>11 事前訪問・報告書の作成・報告</td> <td style="text-align: center;">24～38</td> <td>グループワーク(発表準備)</td> </tr> <tr> <td>12 事前訪問・報告書の作成・報告</td> <td style="text-align: center;">39～42</td> <td>発表・まとめ</td> </tr> <tr> <td>13 実習結団式 (デイサービス)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				1 介護総合演習とは。実習予定の確認 実習要項の説明 実習の心得	14	申し送り票の記入・御礼状作成 実習の振り返り(自己評価)	2 施設を理解する・介護福祉士の仕事 デイサービス(DVD)	15	実習の振り返り(自己評価)	3 実習交流会(2年生より実習体験について)	16	個人票・誓約書・実習のねらい作成	4 施設を理解する・介護福祉士の仕事 グループワーク(デイサービス)	17	個人票・誓約書・実習のねらい作成 記録物の配布	5 施設を理解する・介護福祉士の仕事 グループワーク(デイサービス)	18	グループミーティング (グループホーム)	6 施設を理解する・介護福祉士の仕事 グループワーク発表(デイサービス)	19	事前訪問	7 緊急連絡先確認・電話の掛け方について 個人票・誓約書・実習のねらい作成	20	事前訪問 ・報告書の作成・報告	8 実習記録物の配布 実習記録の書き方につて	21	事前訪問 ・報告書の作成・報告	9 グループミーティング	22	結団式 (グループホーム)	10 事前訪問	23	申し送り票の記入・御礼状作成 実習の振り返り(自己評価)	11 事前訪問・報告書の作成・報告	24～38	グループワーク(発表準備)	12 事前訪問・報告書の作成・報告	39～42	発表・まとめ	13 実習結団式 (デイサービス)		
1 介護総合演習とは。実習予定の確認 実習要項の説明 実習の心得	14	申し送り票の記入・御礼状作成 実習の振り返り(自己評価)																																								
2 施設を理解する・介護福祉士の仕事 デイサービス(DVD)	15	実習の振り返り(自己評価)																																								
3 実習交流会(2年生より実習体験について)	16	個人票・誓約書・実習のねらい作成																																								
4 施設を理解する・介護福祉士の仕事 グループワーク(デイサービス)	17	個人票・誓約書・実習のねらい作成 記録物の配布																																								
5 施設を理解する・介護福祉士の仕事 グループワーク(デイサービス)	18	グループミーティング (グループホーム)																																								
6 施設を理解する・介護福祉士の仕事 グループワーク発表(デイサービス)	19	事前訪問																																								
7 緊急連絡先確認・電話の掛け方について 個人票・誓約書・実習のねらい作成	20	事前訪問 ・報告書の作成・報告																																								
8 実習記録物の配布 実習記録の書き方につて	21	事前訪問 ・報告書の作成・報告																																								
9 グループミーティング	22	結団式 (グループホーム)																																								
10 事前訪問	23	申し送り票の記入・御礼状作成 実習の振り返り(自己評価)																																								
11 事前訪問・報告書の作成・報告	24～38	グループワーク(発表準備)																																								
12 事前訪問・報告書の作成・報告	39～42	発表・まとめ																																								
13 実習結団式 (デイサービス)																																										
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 介護総合演習・介護実習 第3版【中央法規】 介護福祉士の仕事 DVD【日本介護福祉士会】</p>		<p>〔成績評価認定の方法及び基準〕 期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等、総合的に評価。【優・良・可・不可】評価とする。</p>																																								
<p>〔備考〕</p>																																										

授 業 概 要

科目名 発達と老化の理解A		授業の種類 講義・演習	授業担当者 田中 光恵																														
授業の回数 15回	時間数(回数×2) 30時間	配当学年・時期 1年 前期	必修、選択 必修																														
<p>[授業の目的・ねらい] 発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的な理解を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の概要] 1、人を成長・発達する過程について理解させる。 2、老年期における発達課題や高齢者に多い症状・疾病の特徴について理解させる。 3、老化がもたらす高齢者の生活への影響を身体的、精神的、社会的側面からとらえ、老化に伴う変化の特徴とその対応について必要な知識を理解させる。</p>																																	
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 人間の成長と発達</td> <td style="width: 50%;">発達とは</td> </tr> <tr> <td>2 人間の発達段階と発達課題</td> <td>発達と個人差ハバーガー、エリクソンの発達課題の理解</td> </tr> <tr> <td>3 老年期の発達と成熟</td> <td>老化とは</td> </tr> <tr> <td>4 老年期の発達課題の留意点</td> <td>老年期の人格(人格と尊厳)を理解する</td> </tr> <tr> <td>5 老化に伴う心の変化と日常生活</td> <td>老化が及ぼす心理的影響・・・老化による心理や行動を理解する視点などを学ぶ</td> </tr> <tr> <td>6 老いの価値観・受容</td> <td>主観的幸福観、QOL・生きがいの視点、老年期の適正課題とパーソナリティ</td> </tr> <tr> <td>7 高齢者の心の問題と精神障害 I</td> <td>精神的健康とは</td> </tr> <tr> <td>8 高齢者の心の問題と精神障害 II</td> <td>認知症、気分障害の理解</td> </tr> <tr> <td>9 要介護による高齢者の心理</td> <td>老年期の統合失調症・せん妄の理解</td> </tr> <tr> <td>10 老化に伴う身体の変化と日常生活 身体機能の変化</td> <td>老化に伴う外見上の変化と日常生活への影響、免疫機能、感覚器、咀嚼</td> </tr> <tr> <td>11 老化に伴う身体の変化と日常生活 身体機能の変化</td> <td>循環器・呼吸器</td> </tr> <tr> <td>12 老化に伴う身体の変化と日常生活 身体機能の変化</td> <td>筋・骨・関節・泌尿器・生殖・体温維持</td> </tr> <tr> <td>13 老化に伴う知的機能の変化と日常生活の影響 I</td> <td>記憶機能の変化、認知機能の変化</td> </tr> <tr> <td>14 老化に伴う知的機能の変化と日常生活の影響 II</td> <td>記憶機能の変化、認知機能の変化</td> </tr> <tr> <td>15 要点復習</td> <td></td> </tr> </table>				1 人間の成長と発達	発達とは	2 人間の発達段階と発達課題	発達と個人差ハバーガー、エリクソンの発達課題の理解	3 老年期の発達と成熟	老化とは	4 老年期の発達課題の留意点	老年期の人格(人格と尊厳)を理解する	5 老化に伴う心の変化と日常生活	老化が及ぼす心理的影響・・・老化による心理や行動を理解する視点などを学ぶ	6 老いの価値観・受容	主観的幸福観、QOL・生きがいの視点、老年期の適正課題とパーソナリティ	7 高齢者の心の問題と精神障害 I	精神的健康とは	8 高齢者の心の問題と精神障害 II	認知症、気分障害の理解	9 要介護による高齢者の心理	老年期の統合失調症・せん妄の理解	10 老化に伴う身体の変化と日常生活 身体機能の変化	老化に伴う外見上の変化と日常生活への影響、免疫機能、感覚器、咀嚼	11 老化に伴う身体の変化と日常生活 身体機能の変化	循環器・呼吸器	12 老化に伴う身体の変化と日常生活 身体機能の変化	筋・骨・関節・泌尿器・生殖・体温維持	13 老化に伴う知的機能の変化と日常生活の影響 I	記憶機能の変化、認知機能の変化	14 老化に伴う知的機能の変化と日常生活の影響 II	記憶機能の変化、認知機能の変化	15 要点復習	
1 人間の成長と発達	発達とは																																
2 人間の発達段階と発達課題	発達と個人差ハバーガー、エリクソンの発達課題の理解																																
3 老年期の発達と成熟	老化とは																																
4 老年期の発達課題の留意点	老年期の人格(人格と尊厳)を理解する																																
5 老化に伴う心の変化と日常生活	老化が及ぼす心理的影響・・・老化による心理や行動を理解する視点などを学ぶ																																
6 老いの価値観・受容	主観的幸福観、QOL・生きがいの視点、老年期の適正課題とパーソナリティ																																
7 高齢者の心の問題と精神障害 I	精神的健康とは																																
8 高齢者の心の問題と精神障害 II	認知症、気分障害の理解																																
9 要介護による高齢者の心理	老年期の統合失調症・せん妄の理解																																
10 老化に伴う身体の変化と日常生活 身体機能の変化	老化に伴う外見上の変化と日常生活への影響、免疫機能、感覚器、咀嚼																																
11 老化に伴う身体の変化と日常生活 身体機能の変化	循環器・呼吸器																																
12 老化に伴う身体の変化と日常生活 身体機能の変化	筋・骨・関節・泌尿器・生殖・体温維持																																
13 老化に伴う知的機能の変化と日常生活の影響 I	記憶機能の変化、認知機能の変化																																
14 老化に伴う知的機能の変化と日常生活の影響 II	記憶機能の変化、認知機能の変化																																
15 要点復習																																	
<p>[使用テキスト・参考文献] 新介護福祉士養成講座⑩発達と老化の理解からだの構造と機能(西村書店) 病気の地図帳(講談社)など</p>		<p>[成績評価認定の方法] 期末試験、出席状況、授業態度などについて、総合的に(優・良・可・不可)評価する。</p>																															
<p>[備考] 実習などの影響があるので、できるだけ繰り返して勉強させ、記憶強化させるように授業を進めていく。</p>																																	

授 業 概 要

科目名 認知症の理解A		授業の種類 講義・演習	授業担当者 三戸 幸子																														
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 1年 後期	必修、選択 必修																														
<p>[授業の目的・ねらい] 認知症に関する基礎的知識を習得し、認知症のある人の特性を理解し、本人や家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。</p> <p>[授業の目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 認知症の定義、これまでの認知症ケアの歴史、視点の変遷を学び、今なぜ認知症の人について学ぶ必要があるのかを理解できる 2 認知症の症状と原因疾患を学び、主に医学面、心理面で認知症の人を理解できる 3 認知症の人のおかれた社会的・心理的環境を学習し、本人本位の視点の重要性を理解できる 																																	
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1 認知症を取り巻く状況</td> <td>認知症の定義を知る</td> </tr> <tr> <td>2 認知症とは何か</td> <td>認知症の特徴を理解する DVD視聴「ぼけなんか恐くない」</td> </tr> <tr> <td>3 認知症ケアの歴史</td> <td>認知症の人の現在とこれから ケアなきケアの時代からの脱却、認知症グループホームの誕生</td> </tr> <tr> <td>4 認知症ケアの歴史</td> <td>大型施設におけるユニットケアの導入 介護保険導入後の認知症ケア</td> </tr> <tr> <td>5 認知症ケアの理念と視点</td> <td>認知症ケアの理念 認知症ケアの視点</td> </tr> <tr> <td>6 認知症の人の行動・心理症状</td> <td>認知症のさまざまな症状 中核症状の理解</td> </tr> <tr> <td>7 認知症の人の行動・心理症状</td> <td>周辺症状とBPSDの概念 BPSDのなかの心理症状・行動症状</td> </tr> <tr> <td>8 脳のしくみ</td> <td>老化のしくみと脳の変化、脳の機能と認知症 認知症に類似した状態 せん妄・うつ病</td> </tr> <tr> <td>9 認知症の原因疾患</td> <td>認知症の主な原因疾患の病態、症状について</td> </tr> <tr> <td>10 認知症の診断と治療</td> <td>認知症の診断の過程と評価 長谷川式認知症スケール</td> </tr> <tr> <td>11 認知症の診断と治療</td> <td>認知症の治療 認知症の薬物療法、非薬物療法</td> </tr> <tr> <td>12 認知症の予防</td> <td>危険因子</td> </tr> <tr> <td>13 認知症の人の心理的理解</td> <td>認知症の人の心理状態について</td> </tr> <tr> <td>14 認知症の人の体験の理解</td> <td>認知症の人の体験を知る</td> </tr> <tr> <td>15 認知症の人の体験の理解 まとめ</td> <td>認知症の人の介護をしていくために(事例)</td> </tr> </table>				1 認知症を取り巻く状況	認知症の定義を知る	2 認知症とは何か	認知症の特徴を理解する DVD視聴「ぼけなんか恐くない」	3 認知症ケアの歴史	認知症の人の現在とこれから ケアなきケアの時代からの脱却、認知症グループホームの誕生	4 認知症ケアの歴史	大型施設におけるユニットケアの導入 介護保険導入後の認知症ケア	5 認知症ケアの理念と視点	認知症ケアの理念 認知症ケアの視点	6 認知症の人の行動・心理症状	認知症のさまざまな症状 中核症状の理解	7 認知症の人の行動・心理症状	周辺症状とBPSDの概念 BPSDのなかの心理症状・行動症状	8 脳のしくみ	老化のしくみと脳の変化、脳の機能と認知症 認知症に類似した状態 せん妄・うつ病	9 認知症の原因疾患	認知症の主な原因疾患の病態、症状について	10 認知症の診断と治療	認知症の診断の過程と評価 長谷川式認知症スケール	11 認知症の診断と治療	認知症の治療 認知症の薬物療法、非薬物療法	12 認知症の予防	危険因子	13 認知症の人の心理的理解	認知症の人の心理状態について	14 認知症の人の体験の理解	認知症の人の体験を知る	15 認知症の人の体験の理解 まとめ	認知症の人の介護をしていくために(事例)
1 認知症を取り巻く状況	認知症の定義を知る																																
2 認知症とは何か	認知症の特徴を理解する DVD視聴「ぼけなんか恐くない」																																
3 認知症ケアの歴史	認知症の人の現在とこれから ケアなきケアの時代からの脱却、認知症グループホームの誕生																																
4 認知症ケアの歴史	大型施設におけるユニットケアの導入 介護保険導入後の認知症ケア																																
5 認知症ケアの理念と視点	認知症ケアの理念 認知症ケアの視点																																
6 認知症の人の行動・心理症状	認知症のさまざまな症状 中核症状の理解																																
7 認知症の人の行動・心理症状	周辺症状とBPSDの概念 BPSDのなかの心理症状・行動症状																																
8 脳のしくみ	老化のしくみと脳の変化、脳の機能と認知症 認知症に類似した状態 せん妄・うつ病																																
9 認知症の原因疾患	認知症の主な原因疾患の病態、症状について																																
10 認知症の診断と治療	認知症の診断の過程と評価 長谷川式認知症スケール																																
11 認知症の診断と治療	認知症の治療 認知症の薬物療法、非薬物療法																																
12 認知症の予防	危険因子																																
13 認知症の人の心理的理解	認知症の人の心理状態について																																
14 認知症の人の体験の理解	認知症の人の体験を知る																																
15 認知症の人の体験の理解 まとめ	認知症の人の介護をしていくために(事例)																																
<p>[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座12 認知症の理解 第3版</p>		<p>[成績評価認定の方法及び基準] 筆記試験80点 提出物10点 出欠席状況10点 【優・良・可・不可】評価とする。</p>																															
<p>[備考]</p>																																	

授 業 概 要

科目名 障害の理解A		授業の種類 講義・演習	授業担当者 杉山 千春
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 1年 前期	必修、選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解する。本人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点についても学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>テキストを中心に、パワーポイントやDVDを活用しながら、障害の基礎的理解・障害の医学的側面の基礎的知識・連携と協働・家族への支援について授業展開する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害の概念 2 わが国における障害者の法的定義 3 障害者福祉の基本理念 4 視覚障害のある人の生活 5 聴覚・言語障害のある人の生活 6 重複障害のある人の生活 7 肢体不自由のある人の生活 8 知的障害のある人の生活 9 精神障害のある人の生活 10 高次脳機能障害のある人の生活 11 高次脳機能障害の症状への対応方法 12 発達障害のある人の生活 13 発達障害のある人への支援 14 重症心身障害のある人の生活 15 要点復習 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新・介護福祉士養成講座 13 障害の理解(中央法規)</p> <p>ぜんぶわかる 人体解剖図(成美堂出版)</p> <p>介護福祉用語辞典(中央法規)</p>		<p>[成績評価認定の方法及び基準]</p> <p>期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等、総合的に評価。</p>	
<p>[備考]</p>			

《 授業概要 》

科目名 ころとからだのしくみA		授業の種類 講義・演習	授業担当者 近藤 和子
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 1年 前期	必修、選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 心理的側面への配慮について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人間の欲求とは何か。 人間の心のしくみを知る。 自立への意欲を引き出し、可能な限り自己実現を目指してもらうための支援とは。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 人間の心のしくみを知り、自立への意欲を引き出すためのポイントが分かるようになる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「健康」とは何か 2 基本的欲求と社会的欲求 3 自立への意欲と自己概念 4 自己実現と尊厳、生きがい 5 「ころ」とはなにか 6 学習・記憶・思考のしくみ(学習) 7 学習・記憶・思考のしくみ(記憶) 8 学習・記憶・思考のしくみ(思考) 9 感情・認知のしくみ(感情) 10 感情・認知のしくみ(認知) 11 感情・認知のしくみ(錯覚) 12 意欲・動機づけのしくみ(意欲) 13 意欲・動機づけのしくみ(動機づけ) 14 適応のしくみ 15 まとめ 			
[使用テキスト・参考文献] 「ころとからだのしくみ」中央法規出版		[成績評価認定の方法及び基準] 期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等、総合的に評価。【優・良・可・不可】評価とする。	
[備考]			

授 業 概 要

科目名 手話		授業の種類 講義・演習	授業担当者 山内 陽子																														
授業の回数 10回	時間数(回数×2) 20時間	配当学年・時期 1年 前期	必修、選択 必修																														
<p>〔授業の目的・ねらい〕 聴覚障害について理解し、コミュニケーション手段である手話で簡単な日常会話ができる</p> <p>〔授業の目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚障害およびコミュニケーション方法を知る 2. 聴覚障害者の大切なコミュニケーション手段である手話の単語や指文字等の実技を繰り返し練習することにより習得する 3. 聴覚障害者との交流によって、生きた手話を学ぶ 																																	
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション・指文字</td> <td>・指文字 ・聴覚障害及び聴覚障害者のコミュニケーション方法について</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>あいさつ・名前に関する手話</td> <td>・挨拶に関する手話 ・名前に関する手話及び指文字を使って自分の名前を表現する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>名前に関する手話</td> <td>・数字に関する手話を使って 自分の生年月日を手話で表現する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>数字・生年月日に関する手話</td> <td>・人称・家族に関する手話を使って 自分の生年月日を手話で表現する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>家族・人称に関する手話</td> <td>・地名・場所に関する手話を使って 学校の場所・自分の住所を手話で表現する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>場所に関する手話</td> <td>・仕事、学校にに関する手話を使って 自分や家族の仕事を手話で表現する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>仕事に関する手話</td> <td>・趣味、得意なこと、好きなことに関する手話を使って 自分の趣味や特技を手話で表現する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>自己紹介のまとめ</td> <td>・疑問詞「何」「何人」「どこ」「いくつ」を使って 自己紹介の会話をする</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>簡単な会話</td> <td>・今まで習った手話を使って 簡単な会話を試みる</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>聴覚障害者との交流会</td> <td>・地元の聴覚障害者と 今まで習った手話を使って交流する</td> </tr> </table>				1	オリエンテーション・指文字	・指文字 ・聴覚障害及び聴覚障害者のコミュニケーション方法について	2	あいさつ・名前に関する手話	・挨拶に関する手話 ・名前に関する手話及び指文字を使って自分の名前を表現する	3	名前に関する手話	・数字に関する手話を使って 自分の生年月日を手話で表現する	4	数字・生年月日に関する手話	・人称・家族に関する手話を使って 自分の生年月日を手話で表現する	5	家族・人称に関する手話	・地名・場所に関する手話を使って 学校の場所・自分の住所を手話で表現する	6	場所に関する手話	・仕事、学校にに関する手話を使って 自分や家族の仕事を手話で表現する	7	仕事に関する手話	・趣味、得意なこと、好きなことに関する手話を使って 自分の趣味や特技を手話で表現する	8	自己紹介のまとめ	・疑問詞「何」「何人」「どこ」「いくつ」を使って 自己紹介の会話をする	9	簡単な会話	・今まで習った手話を使って 簡単な会話を試みる	10	聴覚障害者との交流会	・地元の聴覚障害者と 今まで習った手話を使って交流する
1	オリエンテーション・指文字	・指文字 ・聴覚障害及び聴覚障害者のコミュニケーション方法について																															
2	あいさつ・名前に関する手話	・挨拶に関する手話 ・名前に関する手話及び指文字を使って自分の名前を表現する																															
3	名前に関する手話	・数字に関する手話を使って 自分の生年月日を手話で表現する																															
4	数字・生年月日に関する手話	・人称・家族に関する手話を使って 自分の生年月日を手話で表現する																															
5	家族・人称に関する手話	・地名・場所に関する手話を使って 学校の場所・自分の住所を手話で表現する																															
6	場所に関する手話	・仕事、学校にに関する手話を使って 自分や家族の仕事を手話で表現する																															
7	仕事に関する手話	・趣味、得意なこと、好きなことに関する手話を使って 自分の趣味や特技を手話で表現する																															
8	自己紹介のまとめ	・疑問詞「何」「何人」「どこ」「いくつ」を使って 自己紹介の会話をする																															
9	簡単な会話	・今まで習った手話を使って 簡単な会話を試みる																															
10	聴覚障害者との交流会	・地元の聴覚障害者と 今まで習った手話を使って交流する																															
〔使用テキスト・参考文献〕 最新版 すぐ使える手話 (主婦と生活社)		〔成績評価認定の方法〕 期末試験、出席状況、授業態度などにより、 総合的に(優・良・可・不可)評価する。																															
<p>〔備考〕 前回の復習をしたり、ペアで表現しあったりすることで反復により習得を促す</p>																																	

授 業 概 要

科目名 ビジネスマナー		授業の種類 講義・演習	授業担当者 山本 詳子														
授業の回数 7回	時間数(回数×2) 14時間	配当学年・時期 1年 前期	必修、選択 必修														
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>1、職業人としての基本マナーを身につけ、コミュニケーション力を養う。</p> <p>〔授業の目標〕</p> <p>1、円滑なコミュニケーションを進めるため第一印象の重要性について学ぶ</p> <p>2、正しい敬語の使い方と好ましい話し方を理解する</p> <p>3、社会人として必要なビジネスマナーを理解する</p>																	
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1 コミュニケーション術 (第一印象の重要性)</td> <td>身だしなみを整える 笑顔の作り方 挨拶の仕方 視線 聴き方を理解する</td> </tr> <tr> <td>2 社会人の自覚と心構え</td> <td>報連相 交際のマナーとしきたり 一般常識マナー</td> </tr> <tr> <td>3 言葉遣い</td> <td>正しい敬語の使い方を学ぶ 接遇用語の使い方</td> </tr> <tr> <td>4 話し方の基本知識</td> <td>介護現場におけるホスピタルな話し方を学ぶ</td> </tr> <tr> <td>5 電話対応と接遇</td> <td>さまざまな電話の対応の仕方とことばを学ぶ</td> </tr> <tr> <td>6 電話対応の実際</td> <td>電話を使ってのロールプレイング 自分の声の確認</td> </tr> <tr> <td>7 ビジネス文書の作成</td> <td>社内・社外文書 慣用語句 往復はがき 委任状など</td> </tr> </table>				1 コミュニケーション術 (第一印象の重要性)	身だしなみを整える 笑顔の作り方 挨拶の仕方 視線 聴き方を理解する	2 社会人の自覚と心構え	報連相 交際のマナーとしきたり 一般常識マナー	3 言葉遣い	正しい敬語の使い方を学ぶ 接遇用語の使い方	4 話し方の基本知識	介護現場におけるホスピタルな話し方を学ぶ	5 電話対応と接遇	さまざまな電話の対応の仕方とことばを学ぶ	6 電話対応の実際	電話を使ってのロールプレイング 自分の声の確認	7 ビジネス文書の作成	社内・社外文書 慣用語句 往復はがき 委任状など
1 コミュニケーション術 (第一印象の重要性)	身だしなみを整える 笑顔の作り方 挨拶の仕方 視線 聴き方を理解する																
2 社会人の自覚と心構え	報連相 交際のマナーとしきたり 一般常識マナー																
3 言葉遣い	正しい敬語の使い方を学ぶ 接遇用語の使い方																
4 話し方の基本知識	介護現場におけるホスピタルな話し方を学ぶ																
5 電話対応と接遇	さまざまな電話の対応の仕方とことばを学ぶ																
6 電話対応の実際	電話を使ってのロールプレイング 自分の声の確認																
7 ビジネス文書の作成	社内・社外文書 慣用語句 往復はがき 委任状など																
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>資料 コミュニケーションスキル(西文社) 秘書知識(早稲田教育出版) サービス接遇(早稲田出版)</p>		<p>〔成績評価認定の方法及び基準〕</p> <p>筆記試験80点 授業態度20点 【優・良・可・不可】評価とする。</p>															
<p>〔備考〕</p>																	

授 業 概 要

科目名 社会と制度の理解A		授業の種類 講義	授業担当者 山根 千絵
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 1年 後期	必修、選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 人間の生活、社会の関わりや自助から公助に至る過程について理解する。 わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史や変遷、しくみについて理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 個人と社会の関係の中には「自助」「互助」「共助」があり、社会制度としての「公助」があることを学ぶ。また、社会の制度として、社会保障の基本的な考え方や歴史、変遷、しくみについて学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 社会生活をする上で必要な「公助」を知り、高齢者や障害者などの生活にどのように位置づけられるのか、生活実感として理解できるようになる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人と生活、生活の構成要素、基本用語 2 家族の構造と形態、機能と役割、多様化する家族観 3 地域社会の集団、組織、変貌する地域社会 4 社会とは、社会と組織、機能と役割、人的ネットワーク 5 労働環境と家庭、少子高齢化、育児と介護 6 社会福祉と社会保障、福祉サービスの理念、実施体制 7 社会保障制度の役割と意義、目的と機能、範囲と対象 8 社会保障の歴史、国民皆保険皆年金、介護保険等の流れ 9 社会保障を支えるもの、体系、年金保険、介護保険、医療保険 10 少子高齢化の影響、財政問題、給付と負担の関係 11 介護保険制度創設と目的、個人の尊厳と自立支援 12 介護保険制度概要、保険者と被保険者、サービスの申請、利用者負担 13 保険給付、対象者と種類、介護サービスの内容、地域支援事業 14 国、都道府県、市町村の役割、指定サービス事業者の役割、国民健康保険団体連合会の役割 15 介護支援専門員と介護福祉士、地域包括ケア 			
[使用テキスト・参考文献] 「社会と制度の理解」中央法規出版		[成績評価認定の方法及び基準] 期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等、総合的に評価。【優・良・可・不可】評価とする。	
[備考]			

授業概要

科目名 介護の基本 I-2		授業の種類 講義・演習	授業担当者 福本 智子		
授業の回数 30 回	時間数 (回数 × 2) 60 時間	配当学年・時期 1年 後期	必修、選択 必修		
<p>[授業のねらい] 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解し、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉え、安全やチームケアなどについて理解する</p> <p>[授業全体の概要] <ul style="list-style-type: none"> ・介護とは何か、歴史的な経過から介護がなぜ必要になったかの成り立ちや考え方を理解し、生活支援としての介護の役割や専門性について学ぶ ・介護福祉士に求められている「尊厳を支える介護」の提供について、その考え方の理解を深めるとともに、介護職が行うさまざまな生活支援の意義について学ぶ ・介護を展開するうえでかかわりの深い「ICF」「リハビリテーション」の考え方などについて学ぶ </p>					
<p>[授業の各回の概要]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>1 尊厳を守る介護とは(演習) 尊厳ある介護</p> <p>2 事例から考える尊厳 尊厳を支える介護とは(演習) 高齢者虐待防止法の経緯と概要</p> <p>3 介護とは 介護の視点</p> <p>4 生活支援としての介護とは 生活を支援することの意義 日常生活の支援の意義</p> <p>5 自立支援の意義 自立と自律に向けた支援とは(演習) 求められる高い倫理性</p> <p>6 介護の思想 介護の小史</p> <p>7 介護を受ける人と介護の提供者との関係 命の流れと介護(ターミナルケア)</p> <p>8 QOLとADLの考え方 ノーマライゼーションの意味と介護</p> <p>9 介護の小史を理解する (防府市図書館)</p> <p>10 介護の小史を理解する (防府市図書館)</p> <p>11 介護の小史を理解する (演習)</p> <p>12 介護の小史を理解する (演習)</p> <p>13 介護の小史を理解する (演習)</p> <p>14 介護の小史を理解する (演習)</p> <p>15 介護の小史を理解する (演習)</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>16 介護の小史を理解する (演習)</p> <p>17 介護の小史を理解する (発表)</p> <p>18 介護の小史を理解する (発表)</p> <p>19 介護の小史を理解する (発表・まとめ)</p> <p>20 介護のはたらきと基本的視点 さまざまな生活支援とその意義 着脱介護の視点</p> <p>21 さまざまな生活支援とその意義 排泄介護の視点</p> <p>22 さまざまな生活支援とその意義 食事介護の視点</p> <p>23 さまざまな生活支援とその意義 清潔介護の視点</p> <p>24 ICFの考え方</p> <p>25 ICFの概要・意義 高齢者のストレングス</p> <p>26 事例から考えるICF</p> <p>27 介護とリハビリテーション</p> <p>28 介護予防について 介護のための運動機能</p> <p>29 介護予防のいっぽう体操 介護予防に役立つリハビリ体操</p> <p>30 総まとめ</p> </td> </tr> </table>				<p>1 尊厳を守る介護とは(演習) 尊厳ある介護</p> <p>2 事例から考える尊厳 尊厳を支える介護とは(演習) 高齢者虐待防止法の経緯と概要</p> <p>3 介護とは 介護の視点</p> <p>4 生活支援としての介護とは 生活を支援することの意義 日常生活の支援の意義</p> <p>5 自立支援の意義 自立と自律に向けた支援とは(演習) 求められる高い倫理性</p> <p>6 介護の思想 介護の小史</p> <p>7 介護を受ける人と介護の提供者との関係 命の流れと介護(ターミナルケア)</p> <p>8 QOLとADLの考え方 ノーマライゼーションの意味と介護</p> <p>9 介護の小史を理解する (防府市図書館)</p> <p>10 介護の小史を理解する (防府市図書館)</p> <p>11 介護の小史を理解する (演習)</p> <p>12 介護の小史を理解する (演習)</p> <p>13 介護の小史を理解する (演習)</p> <p>14 介護の小史を理解する (演習)</p> <p>15 介護の小史を理解する (演習)</p>	<p>16 介護の小史を理解する (演習)</p> <p>17 介護の小史を理解する (発表)</p> <p>18 介護の小史を理解する (発表)</p> <p>19 介護の小史を理解する (発表・まとめ)</p> <p>20 介護のはたらきと基本的視点 さまざまな生活支援とその意義 着脱介護の視点</p> <p>21 さまざまな生活支援とその意義 排泄介護の視点</p> <p>22 さまざまな生活支援とその意義 食事介護の視点</p> <p>23 さまざまな生活支援とその意義 清潔介護の視点</p> <p>24 ICFの考え方</p> <p>25 ICFの概要・意義 高齢者のストレングス</p> <p>26 事例から考えるICF</p> <p>27 介護とリハビリテーション</p> <p>28 介護予防について 介護のための運動機能</p> <p>29 介護予防のいっぽう体操 介護予防に役立つリハビリ体操</p> <p>30 総まとめ</p>
<p>1 尊厳を守る介護とは(演習) 尊厳ある介護</p> <p>2 事例から考える尊厳 尊厳を支える介護とは(演習) 高齢者虐待防止法の経緯と概要</p> <p>3 介護とは 介護の視点</p> <p>4 生活支援としての介護とは 生活を支援することの意義 日常生活の支援の意義</p> <p>5 自立支援の意義 自立と自律に向けた支援とは(演習) 求められる高い倫理性</p> <p>6 介護の思想 介護の小史</p> <p>7 介護を受ける人と介護の提供者との関係 命の流れと介護(ターミナルケア)</p> <p>8 QOLとADLの考え方 ノーマライゼーションの意味と介護</p> <p>9 介護の小史を理解する (防府市図書館)</p> <p>10 介護の小史を理解する (防府市図書館)</p> <p>11 介護の小史を理解する (演習)</p> <p>12 介護の小史を理解する (演習)</p> <p>13 介護の小史を理解する (演習)</p> <p>14 介護の小史を理解する (演習)</p> <p>15 介護の小史を理解する (演習)</p>	<p>16 介護の小史を理解する (演習)</p> <p>17 介護の小史を理解する (発表)</p> <p>18 介護の小史を理解する (発表)</p> <p>19 介護の小史を理解する (発表・まとめ)</p> <p>20 介護のはたらきと基本的視点 さまざまな生活支援とその意義 着脱介護の視点</p> <p>21 さまざまな生活支援とその意義 排泄介護の視点</p> <p>22 さまざまな生活支援とその意義 食事介護の視点</p> <p>23 さまざまな生活支援とその意義 清潔介護の視点</p> <p>24 ICFの考え方</p> <p>25 ICFの概要・意義 高齢者のストレングス</p> <p>26 事例から考えるICF</p> <p>27 介護とリハビリテーション</p> <p>28 介護予防について 介護のための運動機能</p> <p>29 介護予防のいっぽう体操 介護予防に役立つリハビリ体操</p> <p>30 総まとめ</p>				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規出版 介護の基本 I</p> <p>中央法規出版 介護の基本 II</p>		<p>[成績評価認定の方法]</p> <p>期末試験、出席状況、授業態度、提出物等を総合的に(優・良・可・不可)評価する。</p>			

授 業 概 要

科目名 コミュニケーション技術A		授業の種類 講義・演習	授業担当者 山根 千絵
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 1年 後期	必修、選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕 援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者やその家族、また多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 利用者及びその家族に対するコミュニケーション技法(質問、相談、助言、指導)について。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 介護実践に必要とされる情報を関係者に伝達する技術を学び、個人情報扱い方や情報の共有、管理の仕方を理解し、実践可能になる。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間の理解で学んだことを振り返り、援助的コミュニケーションにつなげて考える 2 演習を通してコミュニケーションの意義について理解する 3 コミュニケーションの役割や信頼関係の形成につながる技法について学ぶ 4 介護技術の提供を通して利用者とのコミュニケーションを実践する 5 傾聴について演習によって体得する 6 受容と共感について演習によって体得する 7 コミュニケーション技法について事例を通して学ぶ 8 質問の技法や具体的な役割について学び演習する 9 開かれた質問と閉じられた質問について演習する 10 バイステックの7原則について学ぶ 11 バイステックの7原則に沿って事例を考える 12 意欲低下の背景要因とストレスについて学ぶ 13 事例を通して意向を調整する技法を学ぶ 14 グループの意義と留意点について学び、ロールプレイを通して体得する 15 学んできたことの振り返りをグループワークで共有する 			
〔使用テキスト・参考文献〕 「コミュニケーション技術」中央法規出版		〔成績評価認定の方法及び基準〕 期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等、総合的に評価。【優・良・可・不可】評価とする。	
〔備考〕			

授 業 概 要

科目名 生活支援技術 I - 2		授業の種類 講義	授業担当者 原田 綾子																														
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 1年 後期	必修、選択 必修																														
<p>[授業の目的・ねらい] 個人に合わせた食生活をする中で、利用者自身が食生活の楽しさや健康であることの重要性を感じ、その人らしく生きるための支援ができる知識・技術を身につける。</p> <p>[授業の目標] 1. 家庭に対する意識や重要性を学ぶ。 2. 食生活とは何かを知り、利用者自身が食生活の楽しさを感じる事が出来る支援法を学ぶ。 3. 介護技術に必要な基礎知識としての調理法を学ぶ。</p>																																	
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1 食生活の変遷</td> <td>社会変動と日本人の食生活 食生活の変化</td> </tr> <tr> <td>2 栄養について理解①</td> <td>栄養素の働き、代謝</td> </tr> <tr> <td>3 栄養について理解②</td> <td>5大栄養素について詳しく学ぶ</td> </tr> <tr> <td>4 献立の立て方</td> <td>6つの基礎食品、3色食品群、4つの食品群</td> </tr> <tr> <td>5 食品の購入と選択</td> <td>消費期限と賞味期限、遺伝子組み換え アレルギー 食品添加物</td> </tr> <tr> <td>6 食品の保存</td> <td>冷凍、解凍、食品衛生</td> </tr> <tr> <td>7 食品の基本</td> <td>非加熱操作と過熱操作 野菜の切り方 調味料 塩分濃度(うすあじで美味しい出汁について)</td> </tr> <tr> <td>8 食品の調理性①</td> <td>米、小麦粉、野菜の調理性</td> </tr> <tr> <td>9 食品の調理性②</td> <td>肉類、魚介類の調理性 でんぷん、寒天、ゼラチンの調理性</td> </tr> <tr> <td>10 食品成分表の使用について</td> <td>成分表の使い方、栄養計算をする</td> </tr> <tr> <td>11 高齢者の身体機能と栄養</td> <td>消化・吸収 人体の構造 身体の特徴 味覚・聴覚・視覚の変化 嚥下(ソフト食)</td> </tr> <tr> <td>12 食生活に関する施策</td> <td>食事摂取基準、食生活指針 食事バランスガイド 自己の食生活を振り返る</td> </tr> <tr> <td>13 高齢者と疾病</td> <td>生活習慣病 標準体重 適正エネルギー BMIを求める</td> </tr> <tr> <td>14 介護のための栄養・調理</td> <td>高齢者が喜ぶ献立を考える</td> </tr> <tr> <td>15 実習事前講義</td> <td>安全・衛生面について 調理器具の使い方 計量について</td> </tr> </table>				1 食生活の変遷	社会変動と日本人の食生活 食生活の変化	2 栄養について理解①	栄養素の働き、代謝	3 栄養について理解②	5大栄養素について詳しく学ぶ	4 献立の立て方	6つの基礎食品、3色食品群、4つの食品群	5 食品の購入と選択	消費期限と賞味期限、遺伝子組み換え アレルギー 食品添加物	6 食品の保存	冷凍、解凍、食品衛生	7 食品の基本	非加熱操作と過熱操作 野菜の切り方 調味料 塩分濃度(うすあじで美味しい出汁について)	8 食品の調理性①	米、小麦粉、野菜の調理性	9 食品の調理性②	肉類、魚介類の調理性 でんぷん、寒天、ゼラチンの調理性	10 食品成分表の使用について	成分表の使い方、栄養計算をする	11 高齢者の身体機能と栄養	消化・吸収 人体の構造 身体の特徴 味覚・聴覚・視覚の変化 嚥下(ソフト食)	12 食生活に関する施策	食事摂取基準、食生活指針 食事バランスガイド 自己の食生活を振り返る	13 高齢者と疾病	生活習慣病 標準体重 適正エネルギー BMIを求める	14 介護のための栄養・調理	高齢者が喜ぶ献立を考える	15 実習事前講義	安全・衛生面について 調理器具の使い方 計量について
1 食生活の変遷	社会変動と日本人の食生活 食生活の変化																																
2 栄養について理解①	栄養素の働き、代謝																																
3 栄養について理解②	5大栄養素について詳しく学ぶ																																
4 献立の立て方	6つの基礎食品、3色食品群、4つの食品群																																
5 食品の購入と選択	消費期限と賞味期限、遺伝子組み換え アレルギー 食品添加物																																
6 食品の保存	冷凍、解凍、食品衛生																																
7 食品の基本	非加熱操作と過熱操作 野菜の切り方 調味料 塩分濃度(うすあじで美味しい出汁について)																																
8 食品の調理性①	米、小麦粉、野菜の調理性																																
9 食品の調理性②	肉類、魚介類の調理性 でんぷん、寒天、ゼラチンの調理性																																
10 食品成分表の使用について	成分表の使い方、栄養計算をする																																
11 高齢者の身体機能と栄養	消化・吸収 人体の構造 身体の特徴 味覚・聴覚・視覚の変化 嚥下(ソフト食)																																
12 食生活に関する施策	食事摂取基準、食生活指針 食事バランスガイド 自己の食生活を振り返る																																
13 高齢者と疾病	生活習慣病 標準体重 適正エネルギー BMIを求める																																
14 介護のための栄養・調理	高齢者が喜ぶ献立を考える																																
15 実習事前講義	安全・衛生面について 調理器具の使い方 計量について																																
<p>[使用テキスト・参考文献] 「生活支援技術 I」中央法規出版ほか 「わかりやすい介護のための栄養と調理」 ミネルヴァ書房参照 自己作成資料</p>		<p>[成績評価認定の方法及び基準] 筆記試験80点 調理実習15点 提出物5点 【優・良・可・不可】評価とする。</p>																															
<p>[備考]</p>																																	

授 業 概 要

科目名 生活支援技術 I - 2(調理実習)		授業の種類 講義・実習	授業担当者 原田 綾子																														
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 1年 後期	必修、選択 必修																														
<p>〔授業の目的・ねらい〕 食事の重要性について理解し調理の基本を体得する。高齢者及び障害者の食事を理解し食事援助の技術を体得する。</p> <p>〔授業の目標〕 1. 栄養のバランスや調理の組合せを学ぶ 2. 高齢者に適した食事を理解する 3. 実習においては、チームワークの重要性を認識し、協調性を養う</p>																																	
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 30%;">1 高齢者の食事①</td><td>バランス食の調理実習(食品の計量)</td></tr> <tr><td>2 高齢者の食事①</td><td>バランス食の調理実習(食品の計量)</td></tr> <tr><td>3 高齢者の食事②</td><td>魚を扱う調理実習(調理の作業工程と時間)</td></tr> <tr><td>4 高齢者の食事②</td><td>魚を扱う調理実習(調理の作業工程と時間)</td></tr> <tr><td>5 高齢者の食事③</td><td>煮物・焼き物の調理実習(食生活チェック・自主献立作成)</td></tr> <tr><td>6 高齢者の食事③</td><td>煮物・焼き物の調理実習(食生活チェック・自主献立作成)</td></tr> <tr><td>7 高齢者の食事④</td><td>軟飯の調理実習(自主献立作成)</td></tr> <tr><td>8 高齢者の食事④</td><td>軟飯の調理実習(自主献立作成)</td></tr> <tr><td>9 胃腸障害のある時の食事</td><td>粥食の調理実習(食品の栄養価)</td></tr> <tr><td>10 胃腸障害のある時の食事</td><td>粥食の調理実習(食品の栄養価)</td></tr> <tr><td>11 生活習慣病予防の食事</td><td>糖尿病食の調理実習(生活習慣病について)</td></tr> <tr><td>12 生活習慣病予防の食事</td><td>糖尿病食の調理実習(生活習慣病について)</td></tr> <tr><td>13 自主献立</td><td>各班で高齢者に喜ばれる献立をたて実習</td></tr> <tr><td>14 自主献立</td><td>各班で高齢者に喜ばれる献立をたて実習</td></tr> <tr><td>15 まとめ</td><td>高齢者・障害のある方等全般の復習</td></tr> </table>				1 高齢者の食事①	バランス食の調理実習(食品の計量)	2 高齢者の食事①	バランス食の調理実習(食品の計量)	3 高齢者の食事②	魚を扱う調理実習(調理の作業工程と時間)	4 高齢者の食事②	魚を扱う調理実習(調理の作業工程と時間)	5 高齢者の食事③	煮物・焼き物の調理実習(食生活チェック・自主献立作成)	6 高齢者の食事③	煮物・焼き物の調理実習(食生活チェック・自主献立作成)	7 高齢者の食事④	軟飯の調理実習(自主献立作成)	8 高齢者の食事④	軟飯の調理実習(自主献立作成)	9 胃腸障害のある時の食事	粥食の調理実習(食品の栄養価)	10 胃腸障害のある時の食事	粥食の調理実習(食品の栄養価)	11 生活習慣病予防の食事	糖尿病食の調理実習(生活習慣病について)	12 生活習慣病予防の食事	糖尿病食の調理実習(生活習慣病について)	13 自主献立	各班で高齢者に喜ばれる献立をたて実習	14 自主献立	各班で高齢者に喜ばれる献立をたて実習	15 まとめ	高齢者・障害のある方等全般の復習
1 高齢者の食事①	バランス食の調理実習(食品の計量)																																
2 高齢者の食事①	バランス食の調理実習(食品の計量)																																
3 高齢者の食事②	魚を扱う調理実習(調理の作業工程と時間)																																
4 高齢者の食事②	魚を扱う調理実習(調理の作業工程と時間)																																
5 高齢者の食事③	煮物・焼き物の調理実習(食生活チェック・自主献立作成)																																
6 高齢者の食事③	煮物・焼き物の調理実習(食生活チェック・自主献立作成)																																
7 高齢者の食事④	軟飯の調理実習(自主献立作成)																																
8 高齢者の食事④	軟飯の調理実習(自主献立作成)																																
9 胃腸障害のある時の食事	粥食の調理実習(食品の栄養価)																																
10 胃腸障害のある時の食事	粥食の調理実習(食品の栄養価)																																
11 生活習慣病予防の食事	糖尿病食の調理実習(生活習慣病について)																																
12 生活習慣病予防の食事	糖尿病食の調理実習(生活習慣病について)																																
13 自主献立	各班で高齢者に喜ばれる献立をたて実習																																
14 自主献立	各班で高齢者に喜ばれる献立をたて実習																																
15 まとめ	高齢者・障害のある方等全般の復習																																
〔使用テキスト・参考文献〕 「生活支援技術 I」中央法規出版ほか 「わかりやすい介護のための栄養と調理」 自己作成資料		〔成績評価認定の方法及び基準〕 筆記試験80点 調理実習15点 提出物5点 【優・良・可・不可】評価とする。																															
〔備考〕																																	

授 業 概 要

科目名 生活支援技術Ⅱ-2		授業の種類 講義・演習	授業担当者 山本 芳徳 松澤 可奈子																																																												
授業の回数 30 回	時間数(回数×2) 60 時間	配当学年・時期 1年 後期	必修、選択 必修																																																												
<p>[授業の目的・ねらい] どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護技術とは何かを知り、アセスメントの手法や排泄・入浴・清潔保持・睡眠・終末期における介護の意義と目的について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 人間が社会生活を営む中で、年をとったり障害をもつことで、こころやからだに変化をもたらす。それらの具体的な場面に応じたアセスメントと技術を提供できる力を身につける。</p>																																																															
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 45%;">1 入浴・清潔保持の意義と目的 入浴・清潔保持におけるアセスメント</td> <td style="width: 5%;">16</td> <td style="width: 45%;">高齢者疑似体験</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 入浴・清潔保持における介護技術 自立度別介助の視点</td> <td>17</td> <td>移乗(トランスファー)における介護技術</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 入浴・清潔保持における介護技術 自立度別介助の視点</td> <td>18</td> <td>移乗(トランスファー)における介護技術</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4 入浴・清潔保持における介護技術 機械浴槽を使った介助</td> <td>19</td> <td>移乗(トランスファー)における介護技術</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5 入浴・清潔保持における介護技術 機械浴槽を使った介助</td> <td>20</td> <td>移乗(トランスファー)における介護技術</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6 部分浴の介護技術(手浴・足浴)</td> <td>21</td> <td>排泄の介護(排泄の意義と目的)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7 部分浴の介護技術(手浴・足浴)</td> <td>22</td> <td>排泄における介護技術(アセスメントの視点)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8 洗髪の介護技術</td> <td>23</td> <td>排泄の介助における自立度別介助 具・用具の種類と使用方法</td> <td style="text-align: right;">道</td> </tr> <tr> <td>9 清拭の介護技術(全身・部分清拭)</td> <td>24</td> <td>排泄の介助における自立度別介助 トイレ・ポータブルトイレの排泄介助</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10 身じたくの介護(意義と目的)</td> <td>25</td> <td>排泄の介助における自立度別介助 トイレ・ポータブルトイレの排泄介助</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11 身支度における介護技術(整容) 洗面の介助・口腔ケア</td> <td>26</td> <td>排泄の介助における自立度別介助 ベッド上でのおむつ交換の介助</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12 身支度における介護技術 ひげの手入れの介助</td> <td>27</td> <td>排泄の介助における自立度別介助 ベッド上でのおむつ交換の介助</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13 身支度における介護技術 爪の手入れの介助</td> <td>28</td> <td>介護技術(失禁・便秘・下痢等への対応)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14 ベッドメイキング (ベッド臥床時)</td> <td>29</td> <td>介護技術(失禁・便秘・下痢等への対応)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15 ベッドメイキング (ベッド臥床時)</td> <td>30</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> </table>				1 入浴・清潔保持の意義と目的 入浴・清潔保持におけるアセスメント	16	高齢者疑似体験		2 入浴・清潔保持における介護技術 自立度別介助の視点	17	移乗(トランスファー)における介護技術		3 入浴・清潔保持における介護技術 自立度別介助の視点	18	移乗(トランスファー)における介護技術		4 入浴・清潔保持における介護技術 機械浴槽を使った介助	19	移乗(トランスファー)における介護技術		5 入浴・清潔保持における介護技術 機械浴槽を使った介助	20	移乗(トランスファー)における介護技術		6 部分浴の介護技術(手浴・足浴)	21	排泄の介護(排泄の意義と目的)		7 部分浴の介護技術(手浴・足浴)	22	排泄における介護技術(アセスメントの視点)		8 洗髪の介護技術	23	排泄の介助における自立度別介助 具・用具の種類と使用方法	道	9 清拭の介護技術(全身・部分清拭)	24	排泄の介助における自立度別介助 トイレ・ポータブルトイレの排泄介助		10 身じたくの介護(意義と目的)	25	排泄の介助における自立度別介助 トイレ・ポータブルトイレの排泄介助		11 身支度における介護技術(整容) 洗面の介助・口腔ケア	26	排泄の介助における自立度別介助 ベッド上でのおむつ交換の介助		12 身支度における介護技術 ひげの手入れの介助	27	排泄の介助における自立度別介助 ベッド上でのおむつ交換の介助		13 身支度における介護技術 爪の手入れの介助	28	介護技術(失禁・便秘・下痢等への対応)		14 ベッドメイキング (ベッド臥床時)	29	介護技術(失禁・便秘・下痢等への対応)		15 ベッドメイキング (ベッド臥床時)	30	まとめ	
1 入浴・清潔保持の意義と目的 入浴・清潔保持におけるアセスメント	16	高齢者疑似体験																																																													
2 入浴・清潔保持における介護技術 自立度別介助の視点	17	移乗(トランスファー)における介護技術																																																													
3 入浴・清潔保持における介護技術 自立度別介助の視点	18	移乗(トランスファー)における介護技術																																																													
4 入浴・清潔保持における介護技術 機械浴槽を使った介助	19	移乗(トランスファー)における介護技術																																																													
5 入浴・清潔保持における介護技術 機械浴槽を使った介助	20	移乗(トランスファー)における介護技術																																																													
6 部分浴の介護技術(手浴・足浴)	21	排泄の介護(排泄の意義と目的)																																																													
7 部分浴の介護技術(手浴・足浴)	22	排泄における介護技術(アセスメントの視点)																																																													
8 洗髪の介護技術	23	排泄の介助における自立度別介助 具・用具の種類と使用方法	道																																																												
9 清拭の介護技術(全身・部分清拭)	24	排泄の介助における自立度別介助 トイレ・ポータブルトイレの排泄介助																																																													
10 身じたくの介護(意義と目的)	25	排泄の介助における自立度別介助 トイレ・ポータブルトイレの排泄介助																																																													
11 身支度における介護技術(整容) 洗面の介助・口腔ケア	26	排泄の介助における自立度別介助 ベッド上でのおむつ交換の介助																																																													
12 身支度における介護技術 ひげの手入れの介助	27	排泄の介助における自立度別介助 ベッド上でのおむつ交換の介助																																																													
13 身支度における介護技術 爪の手入れの介助	28	介護技術(失禁・便秘・下痢等への対応)																																																													
14 ベッドメイキング (ベッド臥床時)	29	介護技術(失禁・便秘・下痢等への対応)																																																													
15 ベッドメイキング (ベッド臥床時)	30	まとめ																																																													
<p>[使用テキスト・参考文献] 「生活支援技術Ⅱ」中央法規出版 「介護ケア・ガイド」 文光堂 「高齢者ケアガイドライン」山口県介護福祉士会</p>		<p>[成績評価認定の方法及び基準] 期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等、総合的に評価。【優・良・可・不可】評価とする。</p>																																																													
[備考]																																																															

授 業 概 要

科目名 生活支援技術Ⅲ-1		授業の種類 講義・演習	授業担当者 三戸 幸子																														
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 1年 後期	必修、選択 必修																														
<p>[授業の目的・ねらい] 障害に応じて、それぞれの障害の理解と生活を支えるための基本介護技術を学ぶ</p> <p>[授業の目標] 1 障害などがあってもこれまでの生活が継続されるように、状況に合わせた介護を行うことが理解できる 2 現在の状態を把握し潜在能力を引き出し自立を目指してできる可能性を伸ばしていくことを理解できる 3 個別性を重視した介護の展開を理解できる</p>																																	
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">1 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは</td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">社会福祉士及び介護福祉士法における介護福祉士の定義の変遷、利用者像の理解、介護福祉士に求められること</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">2 視覚障害に応じた介護</td> <td style="vertical-align: top;">視覚障害のある人と生活の理解、生活支援と環境整備</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">3 視覚障害に応じた介護</td> <td style="vertical-align: top;">介護技術の展開、他職種の役割と協働・連携</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">4 聴覚・言語障害に応じた介護</td> <td style="vertical-align: top;">聴覚障害・聴力検査・補聴器について</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">5 聴覚・言語障害に応じた介護</td> <td style="vertical-align: top;">コミュニケーションの保障、言語障害</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">6 重複障害<盲ろう>に応じた介護</td> <td style="vertical-align: top;">盲ろう者と生活の理解、生活支援と環境整備 移動における介護技術の展開、他職種の役割と協働・連携</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">7 運動機能障害に応じた介護</td> <td style="vertical-align: top;">運動機能障害と日常生活動作</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">8 運動機能障害に応じた介護</td> <td style="vertical-align: top;">生活場面と支援のポイント</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">9 運動機能障害に応じた介護</td> <td style="vertical-align: top;">介護技術の展開</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">10 内部障害に応じた介護</td> <td style="vertical-align: top;">心臓機能障害に応じた介護</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">11 内部障害に応じた介護</td> <td style="vertical-align: top;">腎機能障害に応じた介護</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">12 内部障害に応じた介護</td> <td style="vertical-align: top;">呼吸器機能障害に応じた介護</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">13 内部障害に応じた介護</td> <td style="vertical-align: top;">膀胱・直腸機能障害に応じた介護</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">14 内部障害に応じた介護</td> <td style="vertical-align: top;">肝臓機能障害に応じた介護</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">15 まとめ</td> <td></td> </tr> </table>				1 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは	社会福祉士及び介護福祉士法における介護福祉士の定義の変遷、利用者像の理解、介護福祉士に求められること	2 視覚障害に応じた介護	視覚障害のある人と生活の理解、生活支援と環境整備	3 視覚障害に応じた介護	介護技術の展開、他職種の役割と協働・連携	4 聴覚・言語障害に応じた介護	聴覚障害・聴力検査・補聴器について	5 聴覚・言語障害に応じた介護	コミュニケーションの保障、言語障害	6 重複障害<盲ろう>に応じた介護	盲ろう者と生活の理解、生活支援と環境整備 移動における介護技術の展開、他職種の役割と協働・連携	7 運動機能障害に応じた介護	運動機能障害と日常生活動作	8 運動機能障害に応じた介護	生活場面と支援のポイント	9 運動機能障害に応じた介護	介護技術の展開	10 内部障害に応じた介護	心臓機能障害に応じた介護	11 内部障害に応じた介護	腎機能障害に応じた介護	12 内部障害に応じた介護	呼吸器機能障害に応じた介護	13 内部障害に応じた介護	膀胱・直腸機能障害に応じた介護	14 内部障害に応じた介護	肝臓機能障害に応じた介護	15 まとめ	
1 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは	社会福祉士及び介護福祉士法における介護福祉士の定義の変遷、利用者像の理解、介護福祉士に求められること																																
2 視覚障害に応じた介護	視覚障害のある人と生活の理解、生活支援と環境整備																																
3 視覚障害に応じた介護	介護技術の展開、他職種の役割と協働・連携																																
4 聴覚・言語障害に応じた介護	聴覚障害・聴力検査・補聴器について																																
5 聴覚・言語障害に応じた介護	コミュニケーションの保障、言語障害																																
6 重複障害<盲ろう>に応じた介護	盲ろう者と生活の理解、生活支援と環境整備 移動における介護技術の展開、他職種の役割と協働・連携																																
7 運動機能障害に応じた介護	運動機能障害と日常生活動作																																
8 運動機能障害に応じた介護	生活場面と支援のポイント																																
9 運動機能障害に応じた介護	介護技術の展開																																
10 内部障害に応じた介護	心臓機能障害に応じた介護																																
11 内部障害に応じた介護	腎機能障害に応じた介護																																
12 内部障害に応じた介護	呼吸器機能障害に応じた介護																																
13 内部障害に応じた介護	膀胱・直腸機能障害に応じた介護																																
14 内部障害に応じた介護	肝臓機能障害に応じた介護																																
15 まとめ																																	
<p>[使用テキスト・参考文献] 生活支援技術Ⅲ第3版(中央法規出版)</p>		<p>[成績評価認定の方法及び基準] 筆記試験80点 提出物・出欠席状況20点 総合的に評価(優・良・可・不可)の4段階</p>																															
<p>[備考] 疾患や症状は他の科目「発達と老化の理解」「こころとからだのしくみ」「障害の理解」で学習している</p>																																	

授 業 概 要

科目名 介護過程A		授業の種類 講義・演習	授業担当者 有本 徹哉																																													
授業の回数 30 回	時間数 (回数 × 2) 60 時間	配当学年・時期 1年 後期	必修、選択 必修																																													
<p>[授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を統合し、介護過程の展開・介護計画の立案・適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護過程とは何かを捉える。 段階を経ていく介護過程の全体像について。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 介護過程の理論と実習体験を関連付けながら、介護過程を展開することができるようになる。</p>																																																
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 40%;">1 生活支援の考え方と介護過程</td><td style="width: 10%; text-align: center;">16</td><td style="width: 40%;">目標の設定</td></tr> <tr><td>2 介護過程の意義・目的</td><td style="text-align: center;">17</td><td>支援の内容・方法の決定</td></tr> <tr><td>3 展開の基本視点</td><td style="text-align: center;">18</td><td>支援の内容・方法の決定</td></tr> <tr><td>4 介護過程の全体像</td><td style="text-align: center;">19</td><td>事例展開(情報収集)</td></tr> <tr><td>5 アセスメントとは</td><td style="text-align: center;">20</td><td>事例展開(情報収集)</td></tr> <tr><td>6 アセスメントとは</td><td style="text-align: center;">21</td><td>事例展開(解釈・関連づけ・統合化)</td></tr> <tr><td>7 情報の収集</td><td style="text-align: center;">22</td><td>事例展開(解釈・関連づけ・統合化)</td></tr> <tr><td>8 情報の収集(グループワーク)</td><td style="text-align: center;">23</td><td>事例展開(課題)</td></tr> <tr><td>9 情報の収集(グループワーク)</td><td style="text-align: center;">24</td><td>事例展開(計画の立案)</td></tr> <tr><td>10 情報の解釈・関連付け・統合</td><td style="text-align: center;">25</td><td>事例展開(計画の立案)</td></tr> <tr><td>11 情報の解釈・関連付け・統合</td><td style="text-align: center;">26</td><td>事例展開(計画の立案)</td></tr> <tr><td>12 課題の明確化</td><td style="text-align: center;">27</td><td>事例展開(計画の立案)</td></tr> <tr><td>13 計画とは</td><td style="text-align: center;">28</td><td>DVD</td></tr> <tr><td>14 計画とは</td><td style="text-align: center;">29</td><td>DVD</td></tr> <tr><td>15 目標の設定</td><td style="text-align: center;">30</td><td>まとめ</td></tr> </table>				1 生活支援の考え方と介護過程	16	目標の設定	2 介護過程の意義・目的	17	支援の内容・方法の決定	3 展開の基本視点	18	支援の内容・方法の決定	4 介護過程の全体像	19	事例展開(情報収集)	5 アセスメントとは	20	事例展開(情報収集)	6 アセスメントとは	21	事例展開(解釈・関連づけ・統合化)	7 情報の収集	22	事例展開(解釈・関連づけ・統合化)	8 情報の収集(グループワーク)	23	事例展開(課題)	9 情報の収集(グループワーク)	24	事例展開(計画の立案)	10 情報の解釈・関連付け・統合	25	事例展開(計画の立案)	11 情報の解釈・関連付け・統合	26	事例展開(計画の立案)	12 課題の明確化	27	事例展開(計画の立案)	13 計画とは	28	DVD	14 計画とは	29	DVD	15 目標の設定	30	まとめ
1 生活支援の考え方と介護過程	16	目標の設定																																														
2 介護過程の意義・目的	17	支援の内容・方法の決定																																														
3 展開の基本視点	18	支援の内容・方法の決定																																														
4 介護過程の全体像	19	事例展開(情報収集)																																														
5 アセスメントとは	20	事例展開(情報収集)																																														
6 アセスメントとは	21	事例展開(解釈・関連づけ・統合化)																																														
7 情報の収集	22	事例展開(解釈・関連づけ・統合化)																																														
8 情報の収集(グループワーク)	23	事例展開(課題)																																														
9 情報の収集(グループワーク)	24	事例展開(計画の立案)																																														
10 情報の解釈・関連付け・統合	25	事例展開(計画の立案)																																														
11 情報の解釈・関連付け・統合	26	事例展開(計画の立案)																																														
12 課題の明確化	27	事例展開(計画の立案)																																														
13 計画とは	28	DVD																																														
14 計画とは	29	DVD																																														
15 目標の設定	30	まとめ																																														
[使用テキスト・参考文献] 「介護過程」中央法規出版		[成績評価認定の方法及び基準] 授業内での課題・提出物等 10% 後期末試験(筆記) 90%																																														
[備考]																																																

授 業 概 要

科目名 介護総合演習B		授業の種類 講義・演習	授業担当者 松澤 可奈子
授業の回数 34 回	時間数 (回数 × 2) 68 時間	配当学年・時期 1年 後期	必修、選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護実習に向けての心構え、予備知識、動機付け等の準備を行い、介護実習中は実践力が身につくことができるようにし、実習後は振り返りを行うことで効果的な実習を行えるようにする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 実習内容の把握と記録物について。 実習の振り返り。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 根拠に基づいた介護実践、体験を融合して論理的に表現することができる力を身につける。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実習要項の説明・実習の心得 2 施設を理解する・介護福祉士の仕事(特養) 3 施設を理解する・介護福祉士の仕事(老健) 4 施設を理解する・介護福祉士の仕事(障害) 5 実習留意点のまとめ(グループワーク) 6 実習留意点のまとめ(グループワーク) 7 個人票・誓約書・ねらいの作成 8 個人票・誓約書・ねらいの作成,実習記録配布・記録の説明 9 実習準備(技術・記録物の振り返り) 10 レクリエーション企画書作成 11 グループミーティング 12 事前訪問 13 事前訪問 14 事前訪問 15 結団式 16 申し送り票の作成・御礼状の作成 17～31 グループワーク(発表準備) 32～34 発表・まとめ 			
<p>[使用テキスト・参考文献] 介護総合演習・介護実習 第3版【中央法規】 介護福祉士の仕事 DVD【日本介護福祉士会】</p>		<p>[成績評価認定の方法及び基準] 期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等、総合的に評価。 【優・良・可・不可】評価とする。</p>	
<p>[備考]</p>			

授 業 概 要

科目名 発達と老化の理解B		授業の種類 講義	授業担当者 田中 光恵																														
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 1年 後期	必修、選択 必修																														
<p>〔授業の目的・ねらい〕 老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基本的知識を習得する。</p> <p>〔授業の目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の症状や疾患の特徴、留意点を理解する。 2. 保健医療との連携に関する基礎知識を得る。 																																	
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 40%; padding: 5px;">1 老化に伴う記憶・認知機能の変化</td> <td style="padding: 5px;">記憶と認知機能について 認知症リハビリ・デイケア</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">2 高齢者の症状・疾患の特徴</td> <td style="padding: 5px;">高齢期の健康、高齢者医療と介護の巨人・慢性・複数疾患・非定型的な症状・・・</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">3 高齢者に多い症状・訴えとその留意点</td> <td style="padding: 5px;">痛み・めまい・体重減少・しびれ・浮腫・咳・痰・不眠・便秘・下痢・誤嚥・出血・熱中症等</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">4 骨・関節系の病気</td> <td style="padding: 5px;">骨粗鬆症・変形性関節炎・変形性脊椎症・腰部脊椎感狭窄症・後縦靭帯骨化症・関節リウマチの理解</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">5 歯・口腔の病気</td> <td style="padding: 5px;">虫歯 歯周病</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">6 目・耳・皮膚の病気</td> <td style="padding: 5px;">白内障・緑内障・黄班変性症・加齢性難聴・皮膚掻痒症・疥癬・・・</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">7 呼吸器の病気</td> <td style="padding: 5px;">COPD・肺炎・肺結核・・・</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">8 腎・泌尿器の病気</td> <td style="padding: 5px;">前立腺肥大症・がん・腎炎・・・</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">9 脳・神経系疾患</td> <td style="padding: 5px;">パーキンソン病・クロイツフェルト・ヤコブ症</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">10 消化器・循環器系疾患</td> <td style="padding: 5px;">胃・十二指腸潰瘍・心房細動等</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">11 精神疾患</td> <td style="padding: 5px;">老年性うつ病・統合失調症・神経症</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">12 介護保険の特定疾病</td> <td style="padding: 5px;">特定疾病について</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">13 高齢者に起こりやすい感染症</td> <td style="padding: 5px;">特徴、生活上の留意点</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">14 保健医療職との連携</td> <td style="padding: 5px;">チームケアの必要性等</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">15 まとめ</td> <td></td> </tr> </table>				1 老化に伴う記憶・認知機能の変化	記憶と認知機能について 認知症リハビリ・デイケア	2 高齢者の症状・疾患の特徴	高齢期の健康、高齢者医療と介護の巨人・慢性・複数疾患・非定型的な症状・・・	3 高齢者に多い症状・訴えとその留意点	痛み・めまい・体重減少・しびれ・浮腫・咳・痰・不眠・便秘・下痢・誤嚥・出血・熱中症等	4 骨・関節系の病気	骨粗鬆症・変形性関節炎・変形性脊椎症・腰部脊椎感狭窄症・後縦靭帯骨化症・関節リウマチの理解	5 歯・口腔の病気	虫歯 歯周病	6 目・耳・皮膚の病気	白内障・緑内障・黄班変性症・加齢性難聴・皮膚掻痒症・疥癬・・・	7 呼吸器の病気	COPD・肺炎・肺結核・・・	8 腎・泌尿器の病気	前立腺肥大症・がん・腎炎・・・	9 脳・神経系疾患	パーキンソン病・クロイツフェルト・ヤコブ症	10 消化器・循環器系疾患	胃・十二指腸潰瘍・心房細動等	11 精神疾患	老年性うつ病・統合失調症・神経症	12 介護保険の特定疾病	特定疾病について	13 高齢者に起こりやすい感染症	特徴、生活上の留意点	14 保健医療職との連携	チームケアの必要性等	15 まとめ	
1 老化に伴う記憶・認知機能の変化	記憶と認知機能について 認知症リハビリ・デイケア																																
2 高齢者の症状・疾患の特徴	高齢期の健康、高齢者医療と介護の巨人・慢性・複数疾患・非定型的な症状・・・																																
3 高齢者に多い症状・訴えとその留意点	痛み・めまい・体重減少・しびれ・浮腫・咳・痰・不眠・便秘・下痢・誤嚥・出血・熱中症等																																
4 骨・関節系の病気	骨粗鬆症・変形性関節炎・変形性脊椎症・腰部脊椎感狭窄症・後縦靭帯骨化症・関節リウマチの理解																																
5 歯・口腔の病気	虫歯 歯周病																																
6 目・耳・皮膚の病気	白内障・緑内障・黄班変性症・加齢性難聴・皮膚掻痒症・疥癬・・・																																
7 呼吸器の病気	COPD・肺炎・肺結核・・・																																
8 腎・泌尿器の病気	前立腺肥大症・がん・腎炎・・・																																
9 脳・神経系疾患	パーキンソン病・クロイツフェルト・ヤコブ症																																
10 消化器・循環器系疾患	胃・十二指腸潰瘍・心房細動等																																
11 精神疾患	老年性うつ病・統合失調症・神経症																																
12 介護保険の特定疾病	特定疾病について																																
13 高齢者に起こりやすい感染症	特徴、生活上の留意点																																
14 保健医療職との連携	チームケアの必要性等																																
15 まとめ																																	
〔使用テキスト・参考文献〕 「発達と老化の理解」中央法規出版		〔成績評価認定の方法及び基準〕 期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等、総合的に評価。【優・良・可・不可】評価とする。																															
〔備考〕																																	

授 業 概 要

科目名 障害の理解B		授業の種類 講義・演習	授業担当者 杉山 千春
授業の回数 15回	時間数(回数×2) 30時間	配当学年・時期 1年 後期	必修、選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解する。本人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点についても学ぶ。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>テキストを中心に、パワーポイントやDVDを活用しながら、障害の基礎的理解・障害の医学的側面の基礎的知識・連携と協働・家族への支援について授業展開する。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 心臓機能障害のある人の生活 2 腎臓機能障害のある人の生活 3 呼吸機能障害のある人の生活 4 膀胱・直腸機能障害のある人の生活 5 ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害のある人の生活 6 肝臓機能障害のある人の生活 7 難病のある人の生活 8 障害のある人に対する介護 9 社会資源の利用と開発 10 社会資源についてのグループワーク 11 発表 12 家族とは 13 家族への支援 14 連携と協働、地域におけるサポート支援 15 要点のまとめ 			
〔使用テキスト・参考文献〕 新・介護福祉士養成講座 13 障害の理解(中央法規) ぜんぶわかる 人体解剖図(成美堂出版) 介護福祉用語辞典(中央法規)		〔成績評価認定の方法及び基準〕 期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等、総合的に評価。	
〔備考〕			

授 業 概 要

科目名 こころとからだのしくみ B		授業の種類 講義・演習	授業担当者 杉山 千春
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 1年 後期	必修、選択 必修
<p>〔授業のねらい〕</p> <p>生活支援のために必要な基礎知識とする人間のからだについて、その解剖や生理的機能、からだの動きのメカニズムを理解し、合わせて介護福祉士が生活支援の立場で知るべき医療関連知識などを学ぶ。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳や心臓など人間のからだの解剖や生理的機能を理解する。 2. 骨・関節などからだの動きのメカニズムを理解する。 			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康の定義 2 心身の調和、生命の維持と恒常性のしくみ 3 細胞・遺伝、脳・神経 4 骨・筋肉 5 感覚器 ①視覚器 ②平衡感覚器 6 感覚器 ③嗅覚器 ④味覚器 ⑤皮膚 7 呼吸器 8 消化器 ①消化管 9 消化器 ②肝臓・胆嚢・膵臓 10 泌尿器、生殖器 11 内分泌 12 循環器 13 からだの動き ①加齢による機能低下、骨・関節の動き 14 からだの動き ②筋肉の動き、神経系のはたらき 15 要点のまとめ 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>新・介護福祉士養成講座 14 こころとからだのしくみ(中央法規) ぜんぶわかる 人体解剖図(成美堂出版)</p>		<p>〔成績評価認定の方法及び基準〕</p> <p>期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等、総合的に評価。</p>	
<p>〔備考〕</p>			

授 業 概 要

科目名 就職実務A		授業の種類 講義・演習	授業担当者 松澤 可奈子
授業の回数 9回	時間数(回数×2) 18時間	配当学年・時期 1年 後期	必修、選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕 入学当初から、職業に対してしっかりと意識づけを行い、就職活動に向けての動機づけをする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.施設で求められる人材について研究し、自己理解、職業についての理解を深め、自己PRする力を身につける。(志望動機の指導、面接練習、マナーの指導) 2.求職票を作成し、履歴書の書き方を学習する。 3.本校の就職活動の流れを確認し、自己開拓、自己決定、自己責任で就職活動を行うことを意識づける。 			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業内容の説明・職業観を育てる(なぜ働くのか?) 2 各自の出身地域(周辺)の施設を把握する 3 職業理解、就職活動の流れを知る 4 求人状況と内定状況、福祉施設の研究と求人票の見方 5 将来のことを考える自己理解・ワークシート 6 自己理解・ワークシート(自分の強み) 7 自分の強みを活かした自己PRを考える 8 履歴書について・記入方法 9 求職票作成 			
〔使用テキスト・参考文献〕		〔成績評価認定の方法及び基準〕	
〔備考〕			

2年 シラバス

授 業 概 要

科目名 社会と制度の理解B		授業の種類 講義	授業担当者 山根 千絵
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 2年 前期	必修、選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 社会保障制度と障害者自立支援制度について、基礎的知識を習得する。 介護実践に必要な、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 生活と社会福祉の関係や社会保障のしくみ、介護保険制度や障害者自立支援制度、介護実践にかかわる諸制度を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 社会保障制度と障害者自立支援制度について理解できるようになる。 介護実践に関連する諸制度について理解できるようになる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護保険制度の復習(概要) 2 介護保険制度の復習(サービスを中心に) 3 障害の概念について 4 支援費制度から自立支援法、そして総合支援法 5 サービス利用の流れ、種類と内容、相談支援事業 6 組織、国、市町村、指定サービス事業者の役割、その他の機関 7 制度の概要の復習、障害者権利条約、世界の障害者福祉の流れ 8 サービス利用に関わる諸制度、虐待防止の諸制度、権利を擁護する諸制度 9 生活習慣病予防、健康日本21、感染症対策、難病対策 10 医療関係者に関する諸制度、保健医療提供施設に関する諸制度、医療行為 11 生活保護制度、生活福祉資金、その他の生活を支える諸制度 12 福祉施設による生活の場の提供、住宅確保の支援、円滑移動促進に関する法律 13 障害者に関する法制度の復習 14 介護保険制度に関する復習 15 振り返り 			
<p>[使用テキスト・参考文献] 「社会と制度の理解」中央法規出版</p>		<p>[成績評価認定の方法及び基準] 期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等、総合的に評価。【優・良・可・不可】評価とする。</p>	
<p>[備考]</p>			

授 業 概 要

科目名 生活活動論(アクティビティ・サービス)		授業の種類 講義・演習	授業担当者 福本 智子
授業の回数 15 回	時間数(回数×2) 30 時間	配当学年・時期 2年 前期	必修、選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 高齢者と向き合う人材養成のために、理論的基礎としてアセスメント分析の手法を導入。</p> <p>[授業全体の内容の概要] アクティビティ・サービスとは何かを知り、日常生活援助の仕方を学ぶ。 利用者の快い旅立ちもふまえ、計画の実際を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 利用者の活性化を目指し、こころを動かす計画が立てられるような能力を身につけるようになる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生きるための条件(演習)、アクティビティのヒント(事例) 2 アクティビティのヒント(貼り合わせ) 3 アクティビティのヒント(カード作り) 4 NHK にんげんどキュメント「人生のお願いきます」(視聴) 5 アクティビティ理解(花札・百人一首) 6 アクティビティ理解(将棋) 7 アクティビティ理解(マーじゃん) 8 アクティビティ・サービスとは何か、生活支援学としてのアクティビティ・サービス 9 日本におけるアクティビティ・サービスの誕生、アクティビティ・サービスの計画 10 アクティビティ・サービスにおけるICFと支援の基本、アクティビティ・サービスの実践 11 「最強のふたり」(視聴) 12 「最強のふたり」(視聴) 13 事例(演習) 14 事例(演習) 15 事例(発表)、まとめ 			
[使用テキスト・参考文献] 「アクティビティ・サービス」中央法規出版		[成績評価認定の方法及び基準] 期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等、総合的に評価。【優・良・可・不可】評価とする。	
[備考]			

授 業 概 要

科目名 介護の基本Ⅱ-1	授業の種類 講義 演習	授業担当者 山本 芳徳・福本 智子
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 2年 前期
必修、選択 必修		
〔授業の目的・ねらい〕 人間や社会を理解する視点から介護の専門性を理解し、利用者が安心して生きがいの持てる生活が営める生活環境を整えることが可能となるような、関係職種との連携のあり方などを理解する。 〔授業全体の内容の概要〕 介護福祉士とは。 介護サービスと介護福祉士のはたらく場。 介護実践における連携。 〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 人間や社会を理解する視点から介護の専門性を理解し、利用者が安心して生きがいの持てる生活が営める生活環境を整えることが可能となるような、関係職種との連携のあり方などを理解する。		
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数		
<ol style="list-style-type: none"> 1 介護問題の背景と介護福祉士制度 2 求められる介護福祉士像 3 社会福祉士及び介護福祉士法の目的と概要 4 介護福祉士法に関連する諸規定 5 専門職能団体がもつ役割と機能 6 介護実践における倫理 7 介護サービスの特性とケアマネジメント 8 介護保険制度におけるケアマネジメント 9 介護サービスの歴史的変遷と時代背景 10 介護サービスの種類と提供の場 11 居宅系サービス提供の場とその特性 12 居宅系サービス提供の場とその特性 13 入所系サービス提供の場とその特性 14 入所系サービス提供の場とその特性 15 まとめ 		
〔使用テキスト・参考文献〕 「介護の基本Ⅱ」中央法規出版 「資料編」中央法規出版	〔成績評価認定の方法及び基準〕 期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等、総合的に評価。【優・良・可・不可】評価とする。	
〔備考〕		

授 業 概 要

科目名 情報処理演習		授業の種類 講義・演習	授業担当者 澤井 直美																																													
授業の回数 15回	時間数(回数×2) 30時間	配当学年・時期 2年 前期	必修、選択 選択																																													
<p>[授業のねらい] 介護福祉士として必要とされる情報処理活用能力のうち、Microsoft® Office Wordを利用した文書作成をマニュアルを見なくても行うことのできる能力を養う。</p> <p>[授業の目標] 1. マニュアルを見なくても文書作成ができる 2. word機能のうち、文字入力 3. サーティファイ主催のword文書処理技能検定試験3級取得希望者は合格を目指す</p>																																																
<p>[授業の各回の概要]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">1</td> <td style="width: 30%;">基礎知識</td> <td style="width: 50%;">Windows,osなどコンピュータを使用する際の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>wordの活用</td> <td>文字入力・ページ設定・フォントの編集機能</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>〃</td> <td>文字入力練習・段落の編集機能・表作成</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>〃</td> <td>文字入力練習・表の編集・図形や図の挿入</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>検定説明</td> <td>サーティファイ検定についての説明・模擬問題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>問題集演習</td> <td>問題集の課題を各自練習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>模擬試験</td> <td>USBを使って時間計測・採点返却</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>問題集演習</td> <td>文字入力練習・問題集の課題を各自練習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>模擬試験</td> <td>USBを使って時間計測・採点返却</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>問題集演習</td> <td>文字入力練習・問題集の課題を各自練習</td> </tr> </table>				1	基礎知識	Windows,osなどコンピュータを使用する際の基礎知識	2	wordの活用	文字入力・ページ設定・フォントの編集機能	3	〃	文字入力練習・段落の編集機能・表作成	4	〃	文字入力練習・表の編集・図形や図の挿入	5	検定説明	サーティファイ検定についての説明・模擬問題	6	問題集演習	問題集の課題を各自練習	7	〃	〃	8	〃	〃	9	〃	〃	10	模擬試験	USBを使って時間計測・採点返却	11	問題集演習	文字入力練習・問題集の課題を各自練習	12	〃	〃	13	〃	〃	14	模擬試験	USBを使って時間計測・採点返却	15	問題集演習	文字入力練習・問題集の課題を各自練習
1	基礎知識	Windows,osなどコンピュータを使用する際の基礎知識																																														
2	wordの活用	文字入力・ページ設定・フォントの編集機能																																														
3	〃	文字入力練習・段落の編集機能・表作成																																														
4	〃	文字入力練習・表の編集・図形や図の挿入																																														
5	検定説明	サーティファイ検定についての説明・模擬問題																																														
6	問題集演習	問題集の課題を各自練習																																														
7	〃	〃																																														
8	〃	〃																																														
9	〃	〃																																														
10	模擬試験	USBを使って時間計測・採点返却																																														
11	問題集演習	文字入力練習・問題集の課題を各自練習																																														
12	〃	〃																																														
13	〃	〃																																														
14	模擬試験	USBを使って時間計測・採点返却																																														
15	問題集演習	文字入力練習・問題集の課題を各自練習																																														
<p>[使用テキスト・参考文献] サーティファイ Word文書処理技能認定試験3級問題集</p>		<p>[成績評価認定の方法] 実技試験50点 課題実施、課題実施、授業態度等の平常点50点</p>																																														
<p>[備考]</p>																																																

授 業 概 要

科目名 コミュニケーション技術B		授業の種類 講義・演習	授業担当者 山根 千絵
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 2年 前期	必修、選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕 援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者やその家族、また多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 コミュニケーション障害のある利用者への対応(事例)について。 記録・報告・連絡・相談・会議などのあり方について。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 介護実践に必要とされる情報を関係者に伝達する技術を学び、個人情報扱い方や情報の共有、管理の仕方を理解し、実践可能になる。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 コミュニケーションの役割と、傾聴、受容、共感の過程について学ぶ 2 様々な障害を学び、コミュニケーションの阻害要因について理解する 3 非脳損傷型、先天性脳損傷型、後天性脳損傷型などの障害者への対応の全過程や視点を学ぶ 4 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際①高次脳機能障害、失語症、構音障害 5 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際②認知症、若年性認知症、視力障害 6 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際③聴力障害、中途難聴、知的障害、うつ病 7 チームのコミュニケーションの目的を学ぶ 8 チームのコミュニケーションの基礎的な理解を深める 9 チームのコミュニケーションの具体的な方法を学ぶ 10 記録の意義と目的を理解する 11 記録の種類や書き方、活用や管理について学ぶ 12 報告・連絡・相談の意義や目的、具体的な方法と留意点について学ぶ 13 記録の種類や必要性、運営方法について学ぶ 14 ケアカンファレンスをやってみる 15 前期を振り返り、重要ポイントについて復習する 			
〔使用テキスト・参考文献〕 「コミュニケーション技術」中央法規出版		〔成績評価認定の方法及び基準〕 期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等、総合的に評価。【優・良・可・不可】評価とする。	
〔備考〕			

授 業 概 要

科目名 生活支援技術Ⅱ-3		授業の種類 講義・演習	授業担当者 松澤 可奈子
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 2年 前期	必修、選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕 どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を深める。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 介護技術とは何かを知り、身じたく・移動・食事における介護の意義と目的について再確認をする。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 人間が社会生活を営む中で、年をとったり障害をもつことで、こころやからだに変化をもたらす。それらの具体的な場面に応じたアセスメントと技術を提供できる力を身につける。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 排泄介護の振り返り(ポータブルトイレ・おむつ交換) 2 排泄介護の振り返り(ポータブルトイレ・おむつ交換) 3 着脱介護の振り返り(ベッド上での衣服の着脱・パジャマ・浴衣) 4 着脱介護の振り返り(ベッド上での衣服の着脱・パジャマ・浴衣) 5 移乗移動の振り返り(体位変換・車いすへの移乗) 6 移乗移動の振り返り(体位変換・車いすへの移乗) 7 移動移乗の介助(床からの立ち上がり・歩行介助) 8 視覚障害の介護(移動介助・階段の昇降) 9 視覚障害の介護(移動介助・階段の昇降) 10 校外学習(ショッピングモール車いす体験) 11 温・冷罨法意義・目的 12 温・冷罨法(氷嚢・氷枕・氷頸・湯たんぽ) 13 服薬の介護意義・目的(錠剤・散剤・点眼) 14 危険予知訓練意義・目的・グループワーク 15 危険予知訓練グループワーク・発表 事例展開について 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p style="text-align: center;">生活支援技術Ⅱ【中央法規出版】 介護ケアガイド【文光堂】 危険予知訓練【筒井書房】</p>		<p>〔成績評価認定の方法及び基準〕</p> <p>期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等、総合的に評価。【優・良・可・不可】評価とする。</p>	
<p>〔備考〕</p>			

授 業 概 要

科目名 生活支援技術Ⅲ-2		授業の種類 講義	授業担当者 三戸 幸子																														
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 2年 前期	必修、選択 必修																														
<p>〔授業の目的・ねらい〕 障害に応じて、それぞれの障害の理解と生活を支えるための基本介護技術を学ぶ</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害などがあってもこれまでの生活が継続されるように、状況に合わせた介護を行うことが理解できる 2 現在の状態を把握し潜在能力を引き出し自立を目指してできる可能性を伸ばしていくことを理解できる 3 個別性を重視した介護の展開を理解できる 																																	
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%;">1 知的障害に応じた介護</td><td style="width: 50%;">知的障害のある人と生活理解</td></tr> <tr><td>2 知的障害に応じた介護</td><td>生活支援と環境整備</td></tr> <tr><td>3 知的障害に応じた介護</td><td>介護技術の展開、他職種の役割と協働・連携</td></tr> <tr><td>4 精神障害に応じた介護</td><td>精神障害のある人と生活の理解</td></tr> <tr><td>5 精神障害に応じた介護</td><td>生活支援と環境整備</td></tr> <tr><td>6 精神障害に応じた介護</td><td>介護技術の展開、他職種の役割と協働・連携</td></tr> <tr><td>7 高次脳機能障害に応じた介護</td><td>高次脳機能障害のある人と生活の理解</td></tr> <tr><td>8 高次脳機能障害に応じた介護</td><td>生活支援と環境整備</td></tr> <tr><td>9 高次脳機能障害に応じた介護</td><td>介護技術の展開、他職種の役割と協働・連携</td></tr> <tr><td>10 発達障害に応じた介護</td><td>発達障害のある人と生活の理解</td></tr> <tr><td>11 発達障害に応じた介護</td><td>生活支援と環境整備</td></tr> <tr><td>12 発達障害に応じた介護</td><td>介護技術の展開、他職種の役割と協働・連携</td></tr> <tr><td>13 重症心身障害に応じた介護</td><td>重症心身障害のある人と生活の理解、生活支援と環境整備</td></tr> <tr><td>14 重症心身障害に応じた介護</td><td>介護技術の展開、協働・連携</td></tr> <tr><td>15 まとめ</td><td></td></tr> </table>				1 知的障害に応じた介護	知的障害のある人と生活理解	2 知的障害に応じた介護	生活支援と環境整備	3 知的障害に応じた介護	介護技術の展開、他職種の役割と協働・連携	4 精神障害に応じた介護	精神障害のある人と生活の理解	5 精神障害に応じた介護	生活支援と環境整備	6 精神障害に応じた介護	介護技術の展開、他職種の役割と協働・連携	7 高次脳機能障害に応じた介護	高次脳機能障害のある人と生活の理解	8 高次脳機能障害に応じた介護	生活支援と環境整備	9 高次脳機能障害に応じた介護	介護技術の展開、他職種の役割と協働・連携	10 発達障害に応じた介護	発達障害のある人と生活の理解	11 発達障害に応じた介護	生活支援と環境整備	12 発達障害に応じた介護	介護技術の展開、他職種の役割と協働・連携	13 重症心身障害に応じた介護	重症心身障害のある人と生活の理解、生活支援と環境整備	14 重症心身障害に応じた介護	介護技術の展開、協働・連携	15 まとめ	
1 知的障害に応じた介護	知的障害のある人と生活理解																																
2 知的障害に応じた介護	生活支援と環境整備																																
3 知的障害に応じた介護	介護技術の展開、他職種の役割と協働・連携																																
4 精神障害に応じた介護	精神障害のある人と生活の理解																																
5 精神障害に応じた介護	生活支援と環境整備																																
6 精神障害に応じた介護	介護技術の展開、他職種の役割と協働・連携																																
7 高次脳機能障害に応じた介護	高次脳機能障害のある人と生活の理解																																
8 高次脳機能障害に応じた介護	生活支援と環境整備																																
9 高次脳機能障害に応じた介護	介護技術の展開、他職種の役割と協働・連携																																
10 発達障害に応じた介護	発達障害のある人と生活の理解																																
11 発達障害に応じた介護	生活支援と環境整備																																
12 発達障害に応じた介護	介護技術の展開、他職種の役割と協働・連携																																
13 重症心身障害に応じた介護	重症心身障害のある人と生活の理解、生活支援と環境整備																																
14 重症心身障害に応じた介護	介護技術の展開、協働・連携																																
15 まとめ																																	
〔使用テキスト・参考文献〕 生活支援技術Ⅲ 第3版 中央法規出版		〔成績評価認定の方法及び基準〕 筆記試験80点 提出物・出欠席状況20点 総合的に評価(優・良・可・不可)の4段階																															
<p>〔備考〕 疾患や症状は他の科目「発達と老化の理解」「こころとからだのしくみ」「障害の理解」で学習している</p>																																	

授 業 概 要

科目名 介護過程B		授業の種類 講義・演習	授業担当者 有本 徹哉																																													
授業の回数 30 回	時間数(回数×2) 60 時間	配当学年・時期 2年 前期	必修、選択 必修																																													
<p>[授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を統合し、介護過程の展開・介護計画の立案・適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 事例を用い、介護過程の展開を段階的に試みる。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 介護過程の理論と実習体験を関連付けながら、介護過程を展開することができるようになる。</p>																																																
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 40%;">1 事例展開①(計画の立案)</td><td style="width: 10%;">16</td><td style="width: 40%;">各グループで事例の振り返り</td></tr> <tr><td>2 事例展開①(計画の立案)</td><td>17</td><td>各グループで事例の振り返り</td></tr> <tr><td>3 事例展開②(計画の立案)</td><td>18</td><td>事例検討会</td></tr> <tr><td>4 事例展開②(計画の立案)</td><td>19</td><td>事例検討会</td></tr> <tr><td>5 事例展開③(計画の立案)</td><td>20</td><td>事例検討会</td></tr> <tr><td>6 事例展開③(計画の立案)</td><td>21</td><td>介護計画の実施</td></tr> <tr><td>7 ケース記録1・2について 記入方法の振り返り</td><td>22</td><td>介護計画の実施</td></tr> <tr><td>8 介護実習Ⅱ-1に向けて準備</td><td>23</td><td>介護計画の実施</td></tr> <tr><td>9 各ケース担当についてグループワーク</td><td>24</td><td>介護計画の評価</td></tr> <tr><td>10 各ケース担当についてグループワーク</td><td>25</td><td>介護計画の評価</td></tr> <tr><td>11 グループでのカンファレンス</td><td>26</td><td>介護計画の評価</td></tr> <tr><td>12 グループでのカンファレンス</td><td>27</td><td>事例展開②</td></tr> <tr><td>13 各グループで事例の振り返り</td><td>28</td><td>事例展開②</td></tr> <tr><td>14 各グループで事例の振り返り</td><td>29</td><td>事例展開②</td></tr> <tr><td>15 各グループで事例の振り返り</td><td>30</td><td>まとめ</td></tr> </table>				1 事例展開①(計画の立案)	16	各グループで事例の振り返り	2 事例展開①(計画の立案)	17	各グループで事例の振り返り	3 事例展開②(計画の立案)	18	事例検討会	4 事例展開②(計画の立案)	19	事例検討会	5 事例展開③(計画の立案)	20	事例検討会	6 事例展開③(計画の立案)	21	介護計画の実施	7 ケース記録1・2について 記入方法の振り返り	22	介護計画の実施	8 介護実習Ⅱ-1に向けて準備	23	介護計画の実施	9 各ケース担当についてグループワーク	24	介護計画の評価	10 各ケース担当についてグループワーク	25	介護計画の評価	11 グループでのカンファレンス	26	介護計画の評価	12 グループでのカンファレンス	27	事例展開②	13 各グループで事例の振り返り	28	事例展開②	14 各グループで事例の振り返り	29	事例展開②	15 各グループで事例の振り返り	30	まとめ
1 事例展開①(計画の立案)	16	各グループで事例の振り返り																																														
2 事例展開①(計画の立案)	17	各グループで事例の振り返り																																														
3 事例展開②(計画の立案)	18	事例検討会																																														
4 事例展開②(計画の立案)	19	事例検討会																																														
5 事例展開③(計画の立案)	20	事例検討会																																														
6 事例展開③(計画の立案)	21	介護計画の実施																																														
7 ケース記録1・2について 記入方法の振り返り	22	介護計画の実施																																														
8 介護実習Ⅱ-1に向けて準備	23	介護計画の実施																																														
9 各ケース担当についてグループワーク	24	介護計画の評価																																														
10 各ケース担当についてグループワーク	25	介護計画の評価																																														
11 グループでのカンファレンス	26	介護計画の評価																																														
12 グループでのカンファレンス	27	事例展開②																																														
13 各グループで事例の振り返り	28	事例展開②																																														
14 各グループで事例の振り返り	29	事例展開②																																														
15 各グループで事例の振り返り	30	まとめ																																														
<p>[使用テキスト・参考文献] 「介護過程」中央法規出版</p>		<p>[成績評価認定の方法及び基準] 事例検討会での参加状況・提出物等 10% 前期末試験(筆記) 90%</p>																																														
<p>[備考]</p>																																																

授 業 概 要

科目名 介護総合演習C		授業の種類 講義 演習	授業担当者 山本 芳徳
授業の回数 17 回	時間数 (回数 × 2) 34 時間	配当学年・時期 2年 前期	必修、選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕 介護実習に向けての心構え、予備知識、動機付け等の準備を行い、介護実習中は実践力が身につくことができるようにし、実習後は振り返りを行うことで効果的な実習を行えるようにする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 実習内容の把握と記録物について。介護過程について。 実習の振り返り。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 根拠に基づいた介護実践、体験を融合して論理的に表現することができる力を身につける。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護実習Ⅱ-1の意義と目的、実習要綱説明 2 介護実習Ⅱ-1のねらいの作成、個人票・誓約書の作成 3 介護記録の振り返り (演習) 4 介護記録の振り返り (演習) 5 介護記録について (演習)、支援を行うための留意点を考える 6 介護記録について (演習)、支援を行うための留意点を考える 7 介護福祉学科1年生との交流 (演習)、介護実習体験を伝える 8 介護実習Ⅱ-1 グループミーティング 9 実習事前訪問 10 実習事前訪問 11 実習事前訪問 12 介護実習Ⅱ-1 結団式 13 帰校日 14 帰校日 15 帰校日 16 帰校日 17 後指導 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 「高齢者ケアガイドライン」山口県介護福祉士会</p>		<p>〔成績評価認定の方法及び基準〕 期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等 総合的に評価 【優・良・可・不可】の4段階</p>	
<p>〔備考〕</p>			

授 業 概 要

科目名 認知症の理解B		授業の種類 講義・演習	授業担当者 三戸 幸子																														
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 2年 前期	必修、選択 必修																														
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>認知症に関する基礎的知識を習得し、認知症のある人の特性を理解し、本人や家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する</p> <p>〔授業の目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症の人の生活を理解できる 2. 認知症のステージに応じた介護を理解できる 3. 認知症の人を支える地域の力を理解できる 4. 認知症の人を支える家族の力を活かす方法を理解できる 5. 認知症に関する制度・関係機関などを理解できる 																																	
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">1 認知機能の変化が生活に及ぼす影響</td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">人を考える4つの視点 あなたが考える「生活」とは？</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">2 認知機能の変化が生活に及ぼす影響</td> <td style="vertical-align: top;">生活とは残された能力を活かすこと「私の○○○」</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">3 環境の力</td> <td style="vertical-align: top;">認知症の人の行動と環境との関係を理解する</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">4 「PEAPの日本版3」及び「PEAPを用いた施設環境ハンドブック」</td> <td style="vertical-align: top;">「PEAP日本版3」及び「PEAPを用いた施設ハンドブック」</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">5 生活を続ける</td> <td style="vertical-align: top;">認知症になっても、これまでの生活を続けるために必要な事柄 専門職として、生活の継続にどのようにかわればよいのか</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">6 若年性認知症の人の生活の理解と支援</td> <td style="vertical-align: top;">若年性認知症の人を取り巻く状況 若年性認知症の人の生活と必要な支援</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">7 認知症の人へのかかわりの基本</td> <td style="vertical-align: top;">かかわる際の前提 自己覚知の9項目/プロセスレコード</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">8 認知症の人へのかかわりの基本</td> <td style="vertical-align: top;">実際のかかわり方の基本</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">9 認知症への気づき</td> <td style="vertical-align: top;">本人の気持ちを知り、家族とのかかわりを考える 介護職として気づいたときの対応方法を学ぶ</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">10 認知症の人の介護過程 ひもときシート</td> <td style="vertical-align: top;">ひもときシート 事例からひもといてみる</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">11 認知症の進行に応じた介護【初期】</td> <td style="vertical-align: top;">初期の認知症への介護</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">12 認知症の進行に応じた介護【中期】</td> <td style="vertical-align: top;">中期の認知症への介護</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">13 認知症の進行に応じた介護【後期】</td> <td style="vertical-align: top;">中期の認知症への介護</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">14 認知症の進行に応じた介護【ターミナル期】</td> <td style="vertical-align: top;">後期の認知症への介護 終末期の介護</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">15 地域の力を活かす・家族の力を活かす</td> <td style="vertical-align: top;">地域におけるサポート体制、レスパイトケア</td> </tr> </table>				1 認知機能の変化が生活に及ぼす影響	人を考える4つの視点 あなたが考える「生活」とは？	2 認知機能の変化が生活に及ぼす影響	生活とは残された能力を活かすこと「私の○○○」	3 環境の力	認知症の人の行動と環境との関係を理解する	4 「PEAPの日本版3」及び「PEAPを用いた施設環境ハンドブック」	「PEAP日本版3」及び「PEAPを用いた施設ハンドブック」	5 生活を続ける	認知症になっても、これまでの生活を続けるために必要な事柄 専門職として、生活の継続にどのようにかわればよいのか	6 若年性認知症の人の生活の理解と支援	若年性認知症の人を取り巻く状況 若年性認知症の人の生活と必要な支援	7 認知症の人へのかかわりの基本	かかわる際の前提 自己覚知の9項目/プロセスレコード	8 認知症の人へのかかわりの基本	実際のかかわり方の基本	9 認知症への気づき	本人の気持ちを知り、家族とのかかわりを考える 介護職として気づいたときの対応方法を学ぶ	10 認知症の人の介護過程 ひもときシート	ひもときシート 事例からひもといてみる	11 認知症の進行に応じた介護【初期】	初期の認知症への介護	12 認知症の進行に応じた介護【中期】	中期の認知症への介護	13 認知症の進行に応じた介護【後期】	中期の認知症への介護	14 認知症の進行に応じた介護【ターミナル期】	後期の認知症への介護 終末期の介護	15 地域の力を活かす・家族の力を活かす	地域におけるサポート体制、レスパイトケア
1 認知機能の変化が生活に及ぼす影響	人を考える4つの視点 あなたが考える「生活」とは？																																
2 認知機能の変化が生活に及ぼす影響	生活とは残された能力を活かすこと「私の○○○」																																
3 環境の力	認知症の人の行動と環境との関係を理解する																																
4 「PEAPの日本版3」及び「PEAPを用いた施設環境ハンドブック」	「PEAP日本版3」及び「PEAPを用いた施設ハンドブック」																																
5 生活を続ける	認知症になっても、これまでの生活を続けるために必要な事柄 専門職として、生活の継続にどのようにかわればよいのか																																
6 若年性認知症の人の生活の理解と支援	若年性認知症の人を取り巻く状況 若年性認知症の人の生活と必要な支援																																
7 認知症の人へのかかわりの基本	かかわる際の前提 自己覚知の9項目/プロセスレコード																																
8 認知症の人へのかかわりの基本	実際のかかわり方の基本																																
9 認知症への気づき	本人の気持ちを知り、家族とのかかわりを考える 介護職として気づいたときの対応方法を学ぶ																																
10 認知症の人の介護過程 ひもときシート	ひもときシート 事例からひもといてみる																																
11 認知症の進行に応じた介護【初期】	初期の認知症への介護																																
12 認知症の進行に応じた介護【中期】	中期の認知症への介護																																
13 認知症の進行に応じた介護【後期】	中期の認知症への介護																																
14 認知症の進行に応じた介護【ターミナル期】	後期の認知症への介護 終末期の介護																																
15 地域の力を活かす・家族の力を活かす	地域におけるサポート体制、レスパイトケア																																
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>新・介護福祉士養成講座12 認知症の理解 第3版</p>		<p>〔成績評価認定の方法及び基準〕</p> <p>筆記試験80点 提出物10点 出欠席状況10点 総合的評価 【優・良・可・不可】の4段階</p>																															
<p>〔備考〕</p>																																	

授 業 概 要

科目名 こころとからだのしくみC		授業の種類 講義・演習	授業担当者 伊東 典子																														
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 2年 前期	必修、選択 必修																														
<p>〔授業の目的・ねらい〕 利用者の日常生活での各場面における一連のプロセスを捉え、その根拠を考えることで支援の仕方を理解する。</p> <p>〔授業の目的〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身支度、移動、食事、入浴、排泄、睡眠に関連したしくみが理解できる 2. 機能低下が及ぼす影響が理解できる 3. 利用者の変化に気づき対応が理解できる 																																	
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1 身じたくに関連したしくみ</td> <td>身支度のしくみ 心身の機能低下が身支度に及ぼす影響</td> </tr> <tr> <td>2 〃</td> <td>変化の気づきと対応</td> </tr> <tr> <td>3 移動に関連したしくみ</td> <td>移動のしくみ 心身の機能低下が移動に及ぼす影響</td> </tr> <tr> <td>4 〃</td> <td>変化の気づきと対応</td> </tr> <tr> <td>5 食事に関連したしくみ</td> <td>食事のしくみ 心身の機能が食事に及ぼす影響</td> </tr> <tr> <td>6 〃</td> <td>変化の気づきと対応</td> </tr> <tr> <td>7 入浴・清潔保持に関連したしくみ</td> <td>入浴・清潔保持のしくみ</td> </tr> <tr> <td>8 〃</td> <td>心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響</td> </tr> <tr> <td>9 〃</td> <td>変化の気づきと対応</td> </tr> <tr> <td>10 排泄に関連したしくみ</td> <td>排泄のしくみ</td> </tr> <tr> <td>11 〃</td> <td>心身の機能低下が排泄に及ぼす影響</td> </tr> <tr> <td>12 〃</td> <td>変化の気づきと対応</td> </tr> <tr> <td>13 睡眠に関連したしくみ</td> <td>睡眠のしくみ 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響</td> </tr> <tr> <td>14 〃</td> <td>変化の気づきと対応</td> </tr> <tr> <td>15 まとめ</td> <td></td> </tr> </table>				1 身じたくに関連したしくみ	身支度のしくみ 心身の機能低下が身支度に及ぼす影響	2 〃	変化の気づきと対応	3 移動に関連したしくみ	移動のしくみ 心身の機能低下が移動に及ぼす影響	4 〃	変化の気づきと対応	5 食事に関連したしくみ	食事のしくみ 心身の機能が食事に及ぼす影響	6 〃	変化の気づきと対応	7 入浴・清潔保持に関連したしくみ	入浴・清潔保持のしくみ	8 〃	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響	9 〃	変化の気づきと対応	10 排泄に関連したしくみ	排泄のしくみ	11 〃	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響	12 〃	変化の気づきと対応	13 睡眠に関連したしくみ	睡眠のしくみ 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響	14 〃	変化の気づきと対応	15 まとめ	
1 身じたくに関連したしくみ	身支度のしくみ 心身の機能低下が身支度に及ぼす影響																																
2 〃	変化の気づきと対応																																
3 移動に関連したしくみ	移動のしくみ 心身の機能低下が移動に及ぼす影響																																
4 〃	変化の気づきと対応																																
5 食事に関連したしくみ	食事のしくみ 心身の機能が食事に及ぼす影響																																
6 〃	変化の気づきと対応																																
7 入浴・清潔保持に関連したしくみ	入浴・清潔保持のしくみ																																
8 〃	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響																																
9 〃	変化の気づきと対応																																
10 排泄に関連したしくみ	排泄のしくみ																																
11 〃	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響																																
12 〃	変化の気づきと対応																																
13 睡眠に関連したしくみ	睡眠のしくみ 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響																																
14 〃	変化の気づきと対応																																
15 まとめ																																	
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 「こころとからだのしくみ」中央法規出版</p>		<p>〔成績評価認定の方法及び基準〕 筆記試験10割 【優・良・可・不可】評価とする。</p>																															
<p>〔備考〕</p>																																	

授 業 概 要

科目名 就職実務B		授業の種類 講義 演習	授業担当者 山本 芳徳
授業の回数 10 回	時間数 (回数 × 2) 20 時間	配当学年・時期 2年 前期	必修、選択 必修
<p>〔授業のねらい〕 進路希望先を明確にするとともに、就職活動の流れに沿って対策を行い準備を整えさせる。 また、採用内定後の心身について指導する。</p> <p>〔授業全体の概要〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 求められる人材についての理解と自覚を深め、自己PRする力を身につける。 (志望動機の指導、面接練習、マナーの指導) 2 本校の就職活動の流れを確認し、自己開拓、自己決定、自己責任で就職活動を行うことを意識づける。 3 個人面接で進路に対して指導助言を行い、就職活動の進め方について意識づけを行う。 4 採用内定後の心得について指導する。 			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 求職票の清書 2 社会人意識とは 福祉環境における現状と求められる人材 3 自己理解について 4 卒業生から在校生へ就職のアドバイス 5 志望動機と自己PR 6 履歴書・添え状の記載指導 7 履歴書・添え状の記載指導 8 面接ロールプレイング 9 面接ロールプレイング 10 面接ロールプレイング 			
〔使用テキスト・参考文献〕 「就職活動実践ワークブック」 PHP研究所		〔成績評価認定の方法及び基準〕	
〔備考〕			

授 業 概 要

科目名 医療的ケア		授業の種類 講義・演習	授業担当 杉山 千春		
授業の回数 40回	時間数 60 時間	配当学年・時期 2年 前期～後期	必修、選択 必修		
<p>[授業のねらい]</p> <p>喀痰吸引等の医療的ケアを、安全・安楽に提供できる。</p> <p>[授業全体の概要]</p> <p>安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性やリスクマネジメントを理解した上で、対象にとって安全・安心なケアを提供できるよう、確実な技術の修得を目指す。</p>					
<p>[授業の各回の概要]</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>1 医療的ケアとは</p> <p>2 医療の倫理、保健医療制度とチーム医療</p> <p>3 安全な療養生活</p> <p>4 清潔保持と感染予防 ①感染予防</p> <p>5 清潔保持と感染予防 ②療養環境の清潔、消毒法</p> <p>6 健康状態の把握</p> <p>7 救急蘇生法 ①</p> <p>8 救急蘇生法 ②</p> <p>9 呼吸のしくみとはたらき</p> <p>10 喀痰吸引とは</p> <p>11 人工呼吸器と吸引、説明と同意</p> <p>12 呼吸器系の感染、喀痰吸引により生じる危険</p> <p>13 急変・事故発生時の対応と事前対策</p> <p>14 喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ</p> <p>15 吸引の技術と留意点 ①吸引前の準備・観察</p> <p>16 " ②吸引実施手順と留意点</p> <p>17 " ②吸引実施手順と留意点</p> <p>18 " ③吸引中の観察</p> <p>19 " ④吸引後の片付け、報告・記録</p> <p>20 喀痰吸引に伴うケア</p> <p>21 喀痰吸引の総まとめ(中間試験)</p> <p>22 消化器系のしくみと働き</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>23 消化・吸収とよくある消化器の症状</p> <p>24 経管栄養とは</p> <p>25 注入する内容に関する知識、経管栄養実施上の留意点</p> <p>26 子どもの経管栄養、経管栄養に関する感染と予防</p> <p>27 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意</p> <p>28 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認</p> <p>29 急変・事故発生時の対応と事前対策、演習問題</p> <p>30 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ</p> <p>31 経管栄養の技術と留意点 ①必要物品の準備と留意点</p> <p>32 " ②経鼻経管栄養実施手順と留意点</p> <p>33 " ③胃ろう経管栄養実施手順と留意点</p> <p>34 " ④実施後の報告・片付け</p> <p>35 経管栄養に必要なケア、報告及び記録</p> <p>36 経管栄養の総まとめ</p> <p>37 喀痰吸引、経管栄養演習</p> <p>38 "</p> <p>39 "</p> <p>40 "</p> </td> </tr> </table>				<p>1 医療的ケアとは</p> <p>2 医療の倫理、保健医療制度とチーム医療</p> <p>3 安全な療養生活</p> <p>4 清潔保持と感染予防 ①感染予防</p> <p>5 清潔保持と感染予防 ②療養環境の清潔、消毒法</p> <p>6 健康状態の把握</p> <p>7 救急蘇生法 ①</p> <p>8 救急蘇生法 ②</p> <p>9 呼吸のしくみとはたらき</p> <p>10 喀痰吸引とは</p> <p>11 人工呼吸器と吸引、説明と同意</p> <p>12 呼吸器系の感染、喀痰吸引により生じる危険</p> <p>13 急変・事故発生時の対応と事前対策</p> <p>14 喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ</p> <p>15 吸引の技術と留意点 ①吸引前の準備・観察</p> <p>16 " ②吸引実施手順と留意点</p> <p>17 " ②吸引実施手順と留意点</p> <p>18 " ③吸引中の観察</p> <p>19 " ④吸引後の片付け、報告・記録</p> <p>20 喀痰吸引に伴うケア</p> <p>21 喀痰吸引の総まとめ(中間試験)</p> <p>22 消化器系のしくみと働き</p>	<p>23 消化・吸収とよくある消化器の症状</p> <p>24 経管栄養とは</p> <p>25 注入する内容に関する知識、経管栄養実施上の留意点</p> <p>26 子どもの経管栄養、経管栄養に関する感染と予防</p> <p>27 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意</p> <p>28 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認</p> <p>29 急変・事故発生時の対応と事前対策、演習問題</p> <p>30 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ</p> <p>31 経管栄養の技術と留意点 ①必要物品の準備と留意点</p> <p>32 " ②経鼻経管栄養実施手順と留意点</p> <p>33 " ③胃ろう経管栄養実施手順と留意点</p> <p>34 " ④実施後の報告・片付け</p> <p>35 経管栄養に必要なケア、報告及び記録</p> <p>36 経管栄養の総まとめ</p> <p>37 喀痰吸引、経管栄養演習</p> <p>38 "</p> <p>39 "</p> <p>40 "</p>
<p>1 医療的ケアとは</p> <p>2 医療の倫理、保健医療制度とチーム医療</p> <p>3 安全な療養生活</p> <p>4 清潔保持と感染予防 ①感染予防</p> <p>5 清潔保持と感染予防 ②療養環境の清潔、消毒法</p> <p>6 健康状態の把握</p> <p>7 救急蘇生法 ①</p> <p>8 救急蘇生法 ②</p> <p>9 呼吸のしくみとはたらき</p> <p>10 喀痰吸引とは</p> <p>11 人工呼吸器と吸引、説明と同意</p> <p>12 呼吸器系の感染、喀痰吸引により生じる危険</p> <p>13 急変・事故発生時の対応と事前対策</p> <p>14 喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ</p> <p>15 吸引の技術と留意点 ①吸引前の準備・観察</p> <p>16 " ②吸引実施手順と留意点</p> <p>17 " ②吸引実施手順と留意点</p> <p>18 " ③吸引中の観察</p> <p>19 " ④吸引後の片付け、報告・記録</p> <p>20 喀痰吸引に伴うケア</p> <p>21 喀痰吸引の総まとめ(中間試験)</p> <p>22 消化器系のしくみと働き</p>	<p>23 消化・吸収とよくある消化器の症状</p> <p>24 経管栄養とは</p> <p>25 注入する内容に関する知識、経管栄養実施上の留意点</p> <p>26 子どもの経管栄養、経管栄養に関する感染と予防</p> <p>27 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意</p> <p>28 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認</p> <p>29 急変・事故発生時の対応と事前対策、演習問題</p> <p>30 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ</p> <p>31 経管栄養の技術と留意点 ①必要物品の準備と留意点</p> <p>32 " ②経鼻経管栄養実施手順と留意点</p> <p>33 " ③胃ろう経管栄養実施手順と留意点</p> <p>34 " ④実施後の報告・片付け</p> <p>35 経管栄養に必要なケア、報告及び記録</p> <p>36 経管栄養の総まとめ</p> <p>37 喀痰吸引、経管栄養演習</p> <p>38 "</p> <p>39 "</p> <p>40 "</p>				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新・介護福祉士養成講座 医療的ケア</p>		<p>[成績評価認定の方法]</p> <p>筆記試験、技術試験、授業態度、提出物等を総合的に評価。</p>			
<p>[備考]</p> <p>1.5時間(90分)を1コマとして換算するため、60時間で40回の授業展開となる。 講義は50時間以上(36コマ目まで)が必須である。演習については、時間外で行う場合もある。</p>					

授 業 概 要

科目名 介護の基本Ⅱ-2		授業の種類 講義・演習	授業担当者 山本 芳徳・福本 智子
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 2年 後期	必修、選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕 人間や社会を理解する視点から介護の専門性を理解し、利用者が安心して生きがいの持てる生活が営める生活環境を整えることが可能となるような、関係職種との連携のあり方などを理解する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 介護における安全の確保、事故防止、感染管理のための方策、介護に携わる人の健康管理。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 人間や社会を理解する視点から介護の専門性を理解し、利用者が安心して生きがいの持てる生活が営める生活環境を整えることが可能となるような、関係職種との連携のあり方などを理解する。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 多職種連携の意義と目的 2 協働職種の理解と連携のあり方 3 多職種連携(校外学習)YICリハビリテーション大学校 4 多職種連携(校外学習)YICリハビリテーション大学校 5 協働職種の機能と役割(グループワーク) 6 協働職種の機能と役割(グループワーク) 7 地域連携の意義と目的 8 地域連携にかかわる機関の理解 9 介護における安全の確保 10 事故防止・安全対策のためのリスクマネジメント 11 感染対策の基礎知識 12 高齢者介護施設と感染対策 13 感染感染症発生時の対応(演習) 14 介護に携わる人の健康管理 15 まとめ 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 「介護の基本Ⅱ」中央法規出版 「資料編」中央法規出版</p>		<p>〔成績評価認定の方法及び基準〕 期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等、総合的に評価。【優・良・可・不可】評価とする。</p>	
<p>〔備考〕</p>			

授 業 概 要

科目名 生活支援技術Ⅱ-4		授業の種類 講義・演習	授業担当者 松澤 可奈子
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 2年 後期	必修、選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕 どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を深める。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 介護技術とは何かを知り、入浴・清潔保持・排泄における介護の意義と目的について再確認をする。 アセスメント事例の演習による復習。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 人間が社会生活を営む中で、年をとったり障害をもつことで、こころやからだに変化をもたらす。それらの具体的な場面に応じたアセスメントと技術を提供できる力を身につける。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 事例の考え方・事例を用いて介護の展開 2 最終実技試験について・前年度の事例展開 3 事例展開(1) 4 事例展開(1)まとめ 5 事例展開(2) 6 事例展開(2)まとめ 7 事例展開1・2 振り返り(デモンストレーション) 8 事例展開(3) 9 事例展開(3)まとめ 10 事例展開(4) 11 事例展開(4)まとめ 12 事例展開(5) 13 事例展開(5)まとめ 14 事例展開 3・4・5 振り返り(デモンストレーション) 15 事例展開まとめ 			
〔使用テキスト・参考文献〕 生活支援技術Ⅱ【中央法規出版】 介護ケアガイド【文光堂】		〔成績評価認定の方法及び基準〕 期末試験 で【優・良・可・不可】評価とする。	
〔備考〕			

授 業 概 要

科目名 介護過程C		授業の種類 講義・演習	授業担当者 有本 徹哉
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 2年 後期	必修、選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を統合し、介護過程の展開・介護計画の立案・適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 事例を用い、介護過程の展開を段階的に試みる。 他の学生の介護過程から幅広い視点を学ぶ</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 介護過程の理論と実習体験を関連付けながら、介護過程を展開することができるようになる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 事例展開② 2 事例展開② 3 事例展開② 4 ケース記録3(評価)の書き方 5 介護実習Ⅱ-2に向けてまとめ 6 介護実習Ⅱ-2で担当したケースを元にグループワーク 7 1事例に対してカンファレンス・モニタリング 8 全体でシェアしていくための資料作り 9 全体でシェアしていくための資料作り 10 全体でシェアしていくための資料作り 11 全体でシェアしていくための資料作り 12 事例発表会 1グループ(20分) 13 事例発表会 1グループ(20分) 14 事例発表会 1グループ(20分) 15 まとめ 			
<p>[使用テキスト・参考文献] 「介護過程」中央法規出版</p>		<p>[成績評価認定の方法及び基準] 事例発表会での評価(教員評価・学生評価)20% 後期末試験(筆記)80%</p>	
<p>[備考]</p>			

授 業 概 要

科目名 介護総合演習D		授業の種類 講義・演習	授業担当者 山本 芳徳
授業の回数 17 回	時間数 (回数 × 2) 34 時間	配当学年・時期 2年 後期	必修、選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護実習に向けての心構え、予備知識、動機付け等の準備を行い、介護実習中は実践力が身につくことができるようにし、実習後は振り返りを行うことで効果的な実習を行えるようにする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 実習内容の把握と記録物について。介護過程について。 実習の振り返り。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 根拠に基づいた介護実践、体験を融合して論理的に表現することができる力を身につける。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護実習Ⅱ-2の意義と目的、実習要綱説明 2 介護実習Ⅱ-2のねらいの作成、個人票・誓約書の作成 3 介護記録の振り返り (演習) 4 介護記録の振り返り (演習) 5 技術の振り返り (演習) 6 技術の振り返り (演習) 7 介護福祉学科1年生との交流 (演習)、介護実習体験を伝える 8 介護実習Ⅱ-2 グループミーティング 9 実習事前訪問 10 実習事前訪問 11 実習事前訪問 12 介護実習Ⅱ-2 結団式 13 帰校日 14 帰校日 15 帰校日 16 帰校日 17 後指導 			
<p>[使用テキスト・参考文献] 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 「高齢者ケアガイドライン」山口県介護福祉士会</p>		<p>[成績評価認定の方法及び基準] 期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等 総合的に評価 【優・良・可・不可】の4段階</p>	
<p>[備考]</p>			

授 業 概 要

科目名 こころとからだのしくみD		授業の種類 講義・演習	授業担当者 近藤 和子
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 2年 後期	必修、選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕 生物学的な死からそれぞれの死生観を捉え、死に対するこころの理解を考える。 専門職として医療職と介護の連携を学ぶ。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 生物学的、法律的に「死」とは何なのか。また、死に伴うこころの変化に対する受容をどのようにしていくのか。 身体機能の低下にあわせた医療職との連携について。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 死生観を明確にもち、死に行く人を受容できるような寛容、寛大な心を養う。 現状を捉え、医療職との連携の中で専門職としてのあり方を学ぶ。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における「死」に対する家族の変容 2 カレン事件と尊厳死 3 尊厳死とリビングウィル 4 尊厳死と安楽死 5 死の定義 6 終末期及び臨終期の身体機能の変化 7 死後の身体的変化及び死亡判定 8 死亡判定から社会的死へ 9 日本人の死生観と遺体観 10 死後のケア 11 死に対する心の理解:キューブラ・ロスの『死ぬ瞬間』 12 死に対する心の理解:日本における「お迎え現象」 13 緩和ケアと家族に対するグリーフケア 14 終末期における医療職との連携 15 まとめ 			
〔使用テキスト・参考文献〕 「こころとからだのしくみ」中央法規出版		〔成績評価認定の方法及び基準〕 期末試験、出欠席状況、授業態度、提出物等、総合的に評価。【優・良・可・不可】評価とする。	
〔備考〕			

授 業 概 要

科目名 卒業研究		授業の種類 講義	授業担当者 福本 智子
授業の回数 15 回	時間数 (回数 × 2) 30 時間	配当学年・時期 2年 後期	必修、選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 実習における担当ケースを事例研究することで、問題点を科学的に分析し、利用者の自立や向上、発達に目を向け、よりよい援助の方法を見つけ出す。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護過程の展開をベースに、事例研究の方法を段階的に学ぶ。 類似したテーマに関する先行研究を行い、専門に通じる文献の検索の仕方を身につけ、確かな研究書作りの基盤をつくる。</p> <p>[授業の各回の概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 卒業研究の流れについて□ 2 研究論文とは何か、論文作成の意義 論文のまとめ方 3 タイトルと目次 ・ 「はじめに」 ・ 事例の紹介 ・ 研究内容 ・ 考察 事例の紹介 ・ 「おわりに」 ・ 謝辞 ・ 文献と資料 ・ 抄録 ・ 全体の整合性 4 具体的事例に学ぶ 5 研究計画書作成□ 6 論文作成 7 論文作成 8 論文作成 9 論文作成 10 論文作成 11 論文作成 12 論文作成 13 論文作成 14 論文作成 15 論文作成 			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 介護事例研究の手引き		[成績評価認定の方法] 各担当教員が評価表に基づき事例研究を評価する	
[備考]			

授 業 概 要

科目名 マネジメント論(介護管理)		授業の種類 講義	授業担当者
授業の回数 15 回	時間数(回数×2) 30 時間	配当学年・時期 2年 後期	必修、選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕 マネジメント(管理)とは、何かを知り、業務を遂行するうえで必要な要素を学ぶ。 介護安全におけるマネジメントの基本的な考え方を理解する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 昨今の介護福祉業界は、政治経済、一般産業界の影響、人口構造、各個人の価値観の多様化等によって影響を受け、大きく変動している。社会ニーズに対応した質の高い介護の提供のためには、介護専門職として実践者の育成と一人一人の能力を生かすマネジメントが求められる。マネジメント機能は、介護実践のあるところすべてにおいて必要であり、介護実践力の構造においても管理的側面が重要である。 また、介護教育の差のみでなく、利用者高齢化等によって発生する事故についても課題が多い。 これらについて、理解を深め、質の高い介護提供のため知識を身につける。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 第1章 介護とマネジメント: マネジメントとは何か、マネジメントの定義を知る。 2 マネジメントのプロセスの4つの機能。PDCAサイクル 3 第2章 経営管理論の変遷 経営管理理論を学ぶ必要性 4 他職種との共同の必要性和効果について。実習の学びから 5 第3章 介護過程と介護ケアのためのマネジメント: 介護過程と介護管理過程の展開 6 組織とは何か 組織構造における管理の原則、ライン・スタッフ 7 第4章 目標管理における「組織目標」と「自己目標」の関係 目標面接と目標管理システム 8 医療・福祉の協同の必要性を学ぶ 9 介護報酬制度の理解 10 リーダーシップとは何か。代表的なリーダーシップ理論 11 第5章 業務遂行のマネジメント: 労務管理・業務管理・物的資源管理・医療品管理 12 時間管理(タイムマネジメント)・ストレスマネジメント・情報マネジメント 13 第6章 リスクマネジメント: 介護事故の定義と分類を理解する。 14 ヒューマンエラーと介護事故の関係、エラーとルール違反の区別を理解する。 15 介護安全を推進するための組織的取組の必要を理解する。KYTとRCAの具体的方法を説明できる。感染症(安全衛生)のリスクマネジメント 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原玲子: 看護マネジメント入門 日本看護協会出版会2011 ・P・ハーシ K・H・ブランチャート共著: 行動科学の展開 生産性出版 ・上原鳴夫: 医療の質のマネジメント 日本規格協会 ・介護スタッフ向け研修コース管理者研修から 2016年度 		<p>〔成績評価認定の方法及び基準〕</p> <p>成績評価基準に基づく その他、GW参加状況、講義参加態度等も参考にする</p>	
<p>〔備考〕</p>			